



実用 AV リテラシー入門

～なぜエロくなったり、エロくならなかったりするのか？／なぜ AV 女優と
現実女性は「別物」なのか？／なぜ「危険男」が増えているのか？／なぜ
AV は侵略的メディアなのか？～

第 1 巻

オリオンヴェイル  著

Copyright ©OrionVeil 🍌
All rights reserved.

本書の無断転載・複製・配信を禁じます。

目次

まえがき	10
AV の本質——「なぜ？」から解き明かす、虚構の欲望世界の全構造	12
第 1 部 エロスの正体	13
第 1 章 はじめに：なぜ、いま AV が「有害」だと感じる女性が増えているのか？	13
第 2 章 AV とは何か？	15
第 3 章 なぜ同じものがエロくなったり、エロくなくなったりするのか？	17
第 3 章 1 節 エロスは「状況しだい」で変わります	17
第 3 章 2 節 エロスの例①：雨に濡れる	18
第 3 章 3 節 エロスの例②：スカートがめくれる	19
第 3 章 4 節 つまり、エロスは文脈依存とはどういうことか？	20
第 4 章 エロスは文脈（状況・意味・物語）である	21
第 4 章 1 節 AV を成立させている 5 つの要素	21
第 4 章 2 節 なぜ「電車やバス」がエロく見えるのか？	22
第 4 章 3 節 段階 1：電車はもともと「中性」	23
第 4 章 4 節 段階 2：AV が「電車＝性的な場所」という状況・意味・物語を大量に供給する	23
第 4 章 5 節 段階 3：視聴者がその状況・意味・物語を「学習」する	24
【パブロフの犬の古典的条件づけ】	25
第 4 章 6 節 段階 4：刷り込みが完成し、「電車＝性的な場所」に変わる	26
第 4 章 7 節 段階 5：現実の電車を「性的な場」と誤認する	27
第 4 章 8 節 なぜ人によってエロく感じたり、中性的に感じたりするのか？	28
第 4 章 9 節 エロスは文脈（状況・意味・物語）で変わる	29
第 2 部：AV の仕組み	31
第 5 章 AV は「5 大要素+10 の細要素」の「商業システム」	31
第 5 章 1 節 5 大要素は「AV 女優の演技と演出でエロく見せる装置」である	31
第 5 章 2 節 なぜ 5 大要素だけでは説明できないのか？	33

第6章 なぜAVはターゲット層ごとに最適化されるのか？	36
第6章1節 AVは「エロスと購買意欲が最大化するように設計」されている	36
第6章2節 なぜAVは「万人向け」ではないのか？	37
第6章3節 AVは「フィクションの欲望世界」である	38
第3部：同じ女性なのにエロくなったり、エロくなくなったりする仕組み	40
第7章 なぜ「同じ女性」がエロくなったり、ならなくなったりするのか？	40
第7章1節 エロスは状況しだいであり、AVはフィクションの欲望世界である	40
【結婚の名言】	40
第7章2節 男の主観的な言い訳	41
第7章3節 ウンコしないハズのアイドルがウンコして幻滅するのと同じ	43
第7章4節 なぜ浮気が「新しい物語」と言われるのか？	44
第7章4節1項 浮気が楽しいのは義務や責任などの現実が無いから	44
第7章4節2項 不倫相手と離婚して結婚したら、どうなるでしょうか？	45
第7章4節3項 2人の女性の人生を破壊する「独身偽装」	47
第7章5節 既婚女性の方へ——結婚生活を振り返ってみてください	49
第8章 男性が女性に責任転嫁する言い訳の分析	51
第8章1節 男性側の主観的な言い訳を分析する	51
第8章2節 男の言い訳を正しく分析すると「単なる妻への責任転嫁」	52
第8章3節 他国の男性と比較して、幼稚な日本人男	54
 イタリア人男性と日本人男の断られ方の違い	54
 スウェーデン人男性の家事や育児	54
 アメリカ人男性の家事や育児	55
 日本人男性の家事や育児	56
第8章4節 責任転嫁する無責任男は、浮気に走る	57
第4部：AV女優と現実女性は「別物」	58
第9章 AV女優と現実女性は、なぜ「別物」なのか？	58
第9章1節 なぜAV女優と現実女性を混同してはいけないのか？	58
第9章2節 AVと現実の最大のギャップは同意とプロセスの省略	59
第9章3節 なぜ「AVはフィクションの欲望世界」と言えるのか？	61
第10章 AVと似た「幻想を売る職業」には何があるのか？	63

第10章1節	なぜAV以外にも「男の願望の女性を演じる職業」が存在するのか？	63
第10章2節	「幻想を売る商売」は虚構だからトラブルになりやすい	65
第10章3節	なぜ従事者は「演技」をするのか？	66
第10章4節	なぜこれらの職業は「危険」なのか？	67
第11章 なぜ「危険男」が増えているのか？		69
第11章1節	なぜ空想を現実女性に押しつける男が増えているのか？	69
第11章2節	危険男の特徴	70
第11章3節	なぜ「危険男」を見抜く必要があるのか？	72
第5部：AVと現実のギャップ		74
第12章 なぜAVやエロゲーのセリフは「演技」なのか？		74
第12章1節	なぜAVやエロゲーのセリフは「現実の性」とは異なるのか？	74
第12章2節	「中出しを欲しがる」セリフ	77
第12章3節	なぜ「中出しセリフ」がこれほど多いのか？	78
第12章4節	「精液を欲しがる・飲みたがる」セリフ	79
第12章5節	なぜ「精液を欲しがるセリフ」がこれほど多いのか？	80
第12章6節	現実の女性は欲しがっていない	80
第13章 AV女優たちの本音——セリフは「演技」である証拠		82
第13章1節	吉澤明歩——「中出しは女性として譲れない一線、絶対にやらない」	82
第13章2節	戸田真琴——「中出しシーンはすべて偽物だった」	83
第13章3節	麻倉憂——「表情の変化は演技には見えない」	84
第13章4節	三人の「中出し」に関する証言が意味するもの	85
第13章5節	天海翼——「精液は、聞いただけで吐き気がする」	86
第13章6節	濱崎真緒——「102人分の精液を飲み、途中で吐いた」	87
第13章7節	二人の「精液」に関する証言が意味するもの	88
第14章 どうすれば性欲が冷めるのか？——「興奮め」の技術		90
第14章1節	なぜ性欲は「現実」で冷めるのか？	90
第14章2節	なぜ「経済や子育ての現実」を話し合うと興奮めするのか？	91
第14章3節	なぜ「具体的なプランを確認する」と中折れするのか？	92
第14章4節	なぜ「男の娘」だと興奮めするのか？	93
第14章5節	セックス中に男が言われて興奮め・萎えるセリフ	93

第5部：AVの侵略性と対策	95
第15章 なぜAVは「エロくないもの」までエロくしてしまうのか？	95
第15章1節 なぜAVは「エロくないもの」までエロくしてしまうのか？	95
第15章2節 本来エロくないものをAVがエロくした事例	97
第16章 なぜ日本人女性のイメージが毀損されるのか？	99
第16章1節 なぜ日本人女性のイメージが毀損されるのか？	99
第16章2節 一般女性が海外で「AVのイメージ」を押しつけられた被害事例	99
第17章 なぜ「AVは性教育の教科書ではない」と声を上げる必要があるのか？	101
第17章1節 なぜ「AVは性教育の教科書ではない」と声を上げる必要があるのか？	101
第17章2節 カルトが邪魔して「AVを性教育の教科書」にしている	102
第17章3節 精液テロもAVの悪影響？	103
第17章3節1項 日本・岡山県の事例（2023～2024年）	103
第17章3節2項 なぜ飲料水に精液を混入するのか？——AVの「拒否→受容→積極的許可」 という物語が関係している	104
第18章 なぜAV規制はこれほど難しいのか？	107
第18章1節 なぜ日本では「AV新法」ができたのか？	107
第18章2節 なぜAV新法は「限界がある」と言われるのか？	108
第18章3節 なぜ各国で規制のアプローチが違うのか？	109
第19章 なぜ「妄想に取り憑かれた人が支配するファシズム社会」と言われるのか？	111
第19章1節 なぜ空想を現実に押しつける男が「ファシズム的」なのか？	111
第19章2節 「性の解放」で凶暴な男を操り、レイプや略奪を奨励したナチス	113
第19章3節 国家や司法が「性暴力を黙認するとき」、人間の残酷さは際限なくエスカレー トする	115
第19章3節1項 処罰されない暴力は、次の暴力への許可証になる	115
第19章3節2項 イスラエル——性暴力の隠ぺいと「氷山の一角」	115
第19章3節3項 Sde Teiman 収容所事件——「英雄」と呼ばれた加害者たち	117
第19章3節4項 日本——警察官による性加害と「隠ぺい体質」	118
第19章3節5項 被害者の訴えが無視される日常——川崎・神戸ストーカー事件	119
第19章3節6項 エプスタイン・ファイル——「処罰されない富裕層」という究極の黙認	119

第 19 章 3 節 7 項	MAGA と ICE——被害者を沈黙させるための脅迫	121
第 19 章 3 節 8 項	処罰されない暴力は、必ずエスカレートする	122
第 19 章 4 節	トランプやネタニアフや日本は「ファシスト兵士」を復活させている	123
第 19 章 4 節 1 項	現代においても「ファシスト兵士」は復活している	123
第 19 章 4 節 2 項	アメリカ——ヘグセス長官の「全員殺害せよ」命令	124
第 19 章 4 節 3 項	空母リンカーンとフォード——286 日間の極限状態と「罪の街」パタヤ	125
第 19 章 4 節 4 項	日本——検察・警察の性加害と「被害者を陥れる」体質	126
第 19 章 4 節 5 項	ビッグモーター①——「殺すぞ」と恫喝するパワハラ体質	127
第 19 章 4 節 6 項	ビッグモーター②——「処罰されない構造」	128
第 19 章 4 節 7 項	ビッグモーター③——「まともな人を自殺に追い込む構造」	128
第 19 章 4 節 8 項	処罰されない暴力は、必ずエスカレートする	129
第 19 章 5 節	既に水面下で始まっている「産めよ増やせよ」	131
第 19 章 5 節 1 項	産めない女性を庇ったら X のアカウントが永久凍結された	131
第 19 章 5 節 2 項	感謝の量は、そのまま日本女性の傷の量	133
第 19 章 5 節 3 項	何も悪いことをしていないのに、謝っている	133
第 19 章 5 節 4 項	ネットに溢れる「産めよ増やせよ」の暴言	135
第 19 章 5 節 5 項	これは女の問題じゃない。この国の問題だ	136
第 19 章 5 節 6 項	資料	136
ツイート①		137
ツイート②		138
ツイート③		139
ツイート④		140
第 20 章 なぜフィクションと現実を分けることが、ファシズムを防ぐ鍵になるのか？		142
第 20 章 1 節	「現実と虚構の区別」が失われて暴走する	142
第 20 章 1 節	ディズニーを楽しむのと同じ——フィクションと現実を分けること	143
第 20 章 2 節	なぜ欧州に合わせた規制が必要なのか？	145
第 21 章 おわりに——AV の全体像を見渡して		147
あとがき		149
注釈・参考文献		152
参考文献		152
統計・調査出典		152
著者プロフィール		155

まえがき

本書を手にとっていただき、ありがとうございます。

「AV（アダルトビデオ）」と聞いて、あなたは何を思い浮かべますか？

「AVなんて、ただセックスしているだけの映像でしょ？」—そう思っている方も多いかもしれません。

しかし、本書は、そんな単純な見方を根本から覆すために書かれました。

本書は次のような「本質的な”なぜ？”」から始めます。

- ・ AV とは何か？
- ・ エロスとは何か？
- ・ なぜ同じ人でも、エロく感じたり、エロく感じなくなったりするのか？
- ・ なぜ、男は電車やバスや職場を“エロい場所”だと思ってしまうのか？

こうした根本的な疑問に、1つずつ丁寧に答えながら、AVの正体を徹底的に分析し、わかりやすく解説したAVに関する教科書——それが本書です。

また本書は、AVの悪影響に悩む女性の声にも着目して、その原因や理由を徹底的に分析しています。

- ・ AVを見た男に、いきなり普通じゃないプレイを求められた
- ・ AV女優のようにしてほしいと要求された
- ・ レイプや性同意を無視するプレイが、性加害男を増やしている
- ・ AVが男の性教育の教科書になってしまい、正しい性教育が届いていない

こうした悩みや不安の原因はどこにあるのか？その理由を、徹底的に分析して解説しています。さらに、

- ・ なぜ、夫は『妻が劣化した』などと言うのか？
- ・ なぜ、男は『産まない女に価値がない』などと平気で言えるのか？

といった「**男の心理や、男の嘘**」についても深く掘り下げています。

ですから、良くも悪くも、女性も男性も、読み終えたときには「なるほど、そういうことだったのか！」と、長年の謎が解けたような感覚になるはずです。

そして本書は、なぜ空想を現実の女性に押しつける『危険男』が増えているのか？、その背後にあるカルトやファシズムの影響についても、包括的にわかりやすく解説しています。

「性欲を煽るなら、性欲も減退できる」そんな実用的なことも、AV に関する正しいリテラシーがざっくりと学べる、教科書的で、実用的な入門書。それが「実用 AV リテラシー入門書」である本書です。

2026 年 10 月

オリオンヴェイル 🍌

AVの本質―「なぜ？」から解き明かす、虚構の欲望世界の全構造

「実用 AV リテラシー入門シリーズ」は、「[金融テクノファシズムの教科書 第2巻～金融ファシズムと「同意の偽装工作」――「自発的同意」という嘘が、あなたの尊厳と財産と命を奪う～](#)」の続きとして、ご覧ください。

自ら大金欲しさに、AV女優や風俗嬢になった人もいるでしょうが、「同意の偽装工作」でファシスト男の騙しの手口を見てきたように、ホストや反社の悪い男に騙されたり、脅しで強制されてAV女優にされてしまったりした人も大勢いると思います。「金融テクノファシズムの教科書 第2巻」では、そんな「無理矢理 yes と言わせる性同意」の手口について詳しく解説していますので、興味がある方はそちらもご覧になってみて下さい。

この「実用 AV リテラシー入門シリーズ」は、AV とは何なのか？エロスとは何か？など本質的なところから始めて、「アダルトビデオ(AV)」と言うエロコンテンツの仕組みを、一般の男女でもわかるように丁寧に解説する教科書的なものです。

恐らく読み終わった頃には良い意味で「女性も男性も全くアダルトビデオ(AV)に対する認識が変わる」と思います。

徹底的に分析して解説していますので、女性も「なるほど」と長年の謎が解けて納得できて、面白いと思うので、ぜひ楽しんで読んでみて下さい。

26. スペインの小児科学雑誌 *Anales de Pediatría* 2025 年 4 月号——ポルノが「同意や相手への尊重について歪んだイメージを提供し、暴力を正常化する視覚的コンテンツを提供することが一般的である」

著者プロフィール

OrionVeil👁️ (オリオンヴェイル👁️)

OrionVeil👁️ (オリオンヴェイル👁️)

数年前から、日本の民主主義が破壊され、パワハラや独裁化が横行するようになったことに疑問を抱き、カルトと教育、社会構造などについて個人的に研究している者です。

独自に収集したカルトのマインドコントロール技術に関する情報や、教育・日本社会に与えた悪影響などについての研究成果をお届けします。

初の著書である「**イジメの構造の新教科書シリーズ**」第1巻～第9巻では、これまで勘違いされてきた「**イジメの本当の構造**」を明らかにしています。

それに続く第2弾のシリーズとして、「**12.3 韓国クーデター事件簿シリーズ**」第1巻～第3巻では、韓国で起きたクーデター未遂事件と、**カルトの公教育への侵入**を描いています。

そして第3弾のシリーズとして、「**女性の日常を壊す憎悪テロ “マノスフィア” 入門シリーズ**」第1巻～第7巻では、世界中で水面下に進行している「**女性の権利や自由を奪い、女性を奴隷化しようとする**」**ファシズム思想の一種**である「**マノスフィア**」という現象や組織について、詳しく解説しています。

前回は、第4弾のシリーズとして「**金融テクノファシズムの教科書シリーズ**」を刊行しました。このシリーズでは、「**制度的乗っ取り**」や「**略奪経済**」や「**大本営発表**」と言った、看板は同じなのに、国も組織も中身がすり替わって嘘ばかりつくファシストたちの手口を紹介しました。

また、**見えない脅しを使った「自発的同意」**という嘘、そして「**無理矢理 yes と言わせる性同意**」と道徳的偽善といった、ファシストたちが得意な卑怯で卑劣な「**同意の偽装工作**」の手口についても分かりやすく解説しています。

そして今回、「**金融テクノファシズムの教科書 第2巻**」の「**同意の偽装工作**」—特に「**無理矢理 yes と言わせる性同意**」の続きや、「**マノスフィアシリーズ**」の続きとして、第5弾のシリーズ「**実用 AV リテラシー入門シリーズ**」を刊行しました。

実用 AV リテラシー入門

～なぜエロくなったり、エロくならなかったりするのか？／なぜ AV 女優と現実女性
性は「別物」なのか？／なぜ「危険男」が増えているのか？／なぜ AV は侵略的メ
ディアなのか？～

第 1 巻

2026 年 10 月 5 日 初版第 1 刷発行

著 者 オリオンヴェイル 🍈

発行者 オリオンヴェイル 🍈

©OrionVeil 🍈

All rights reserved.

本書の一部または全部を著作権法の定める範囲を超えて
無断で複製・転載・配信することを禁じます。

第1部 エロスの正体

第1章 はじめに：なぜ、いまAVが「有害」だと感じる女性が増えているのか？

「AVを見た男に、いきなり普通じゃないプレイを求められた」

「電車の中で、なんでも性的に見てくる目が怖い」

「AVが男の性教育の教科書になってしまって、正しい性教育が届かない」

「レイプや性同意を無視するプレイが、性加害男を増やしている」

—こう感じている女性が、いま確実に増えています。

実際、2025年6月の調査では、20～30代の女性約20人のうち2割が「日本で女の子を産むと“性被害者”になるから、子どもを作る気になれない」と語っていたと報じられています。また、「性と恋愛に関する意識調査2025」では、学校で受けた性教育が「役立っている」と回答した若者は53.3%にとどまり、大人ではわずか27.6%でした。

ジャーナリストの渡辺真由子氏は、AVやポルノが発信する性情報が「現実社会における性暴力を引き起こす要因となっている」と、JASE 現代性教育研究ジャーナル 2025年3月15日号で指摘しています。

つまり、AVはもはや「一部の男の趣味」ではなく、「社会全体の性意識を歪める公共的な問題になっている」のです。そして、「マノスフィアシリーズ」でも触れてきたように、実際にファシズムの台頭とも密接に関連しています。



そこで今回は、「エロスとはなんなのか?」「なぜ性的に見るようになるのか?」というかなり本質的な部分から始まり、ファシストたちが最も得意な「同意の偽装工作」によって騙されてAV女優にされてしまったように、性の広告の氾濫や性行為の強要にはファシズムやカルトが絡んでおり、日本が再びファシズム国家になったことと密接に関係があることを、AVと言うものの「全体像が見える」ように、分析的にわかりやすく丁寧に解説する教科書的なものを作成してみました。

AV を性教育の教科書にする危険性

日常的な物をなんでもエロに仕立てる異常な男や女は、どこがおかしいのか?

異常男をどうやって見抜けば良いのか?

—そのヒントも記していますので、読んで参考にして現実の生活にも役立てみてください。

第2章 AV とは何か？

Q.AV とは、性行為を撮影した映像でしょうか？

単なる「エロ映像」でしょうか？

—いいえ、違います。

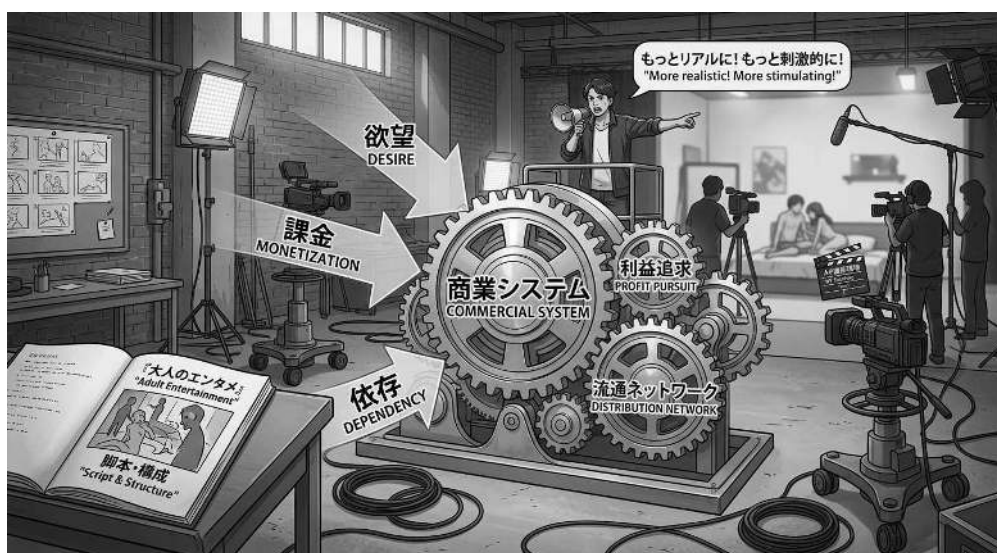
「AV とは、男の欲望を刺激して課金させるための” 商業システム”」です。

これから、その仕組みを徹底的に1つずつ丁寧に解き明かしていきます。

AV は「性行為を記録したドキュメンタリー」ではありません。脚本があり、監督がいて、カメラマンがいて、照明があり、編集があり、音響があり、そして何より「視聴者の欲望をどう刺激するか？という設計思想」があります。

AV 女優という呼称自体が業界用語であり、「女優」と呼ぶくらい演技的要素は大きいです。完全な嘘の芝居でも、日常を記録したドキュメンタリーでもありませんが、「エロスを再構成した” 虚構の欲望世界”」なのです。

そして、この虚構の欲望世界は「男を没入させ、報酬ループに陥れ、財布の紐を緩め、依存させ、課金させ続けるように設計されて」います。



「AV は性教育の教科書じゃない」 —これは正しいです。

しかし現実には、性教育が不十分なまま、AV やウェブ上のアダルトコンテンツを教科書代わりにしている男性が多く、女性の気持ちを考えないセックスをしてしまっているのです。これが、いま大きな社会問題になっています。

因みに、正しい性教育を教えることを邪魔しているのは、統一協会👤などのカルトです。ここでは詳しく解説しませんが、元凶がカルトであることを示す資料だけ掲載しておきます。後述する男尊女卑の妄想を押し付ける「危険男」を育成している元凶でもあり、日本をファシズム化している元凶でもあります。ここでは敢えて触れずに、AV に関してだけ焦点を絞って解説していきたいと思います。

[【YouTube Video】 【金曜ジャーナル】 “統一教会” と性教育 その後・前編](#)

[【YouTube Video】 【金曜ジャーナル】 “統一教会” と性教育 その後・後編](#)

Q.AV がそんなに男や女を惹きつけ、中毒性が高く依存させ、課金させ、現実の性意識や行動にまで影響を与える力を持っているのか？

では、なぜ AV がそんなに男や女を惹きつけ、中毒性が高く依存させ、課金させ、現実の性意識や行動にまで影響を与える力を持っているのか？その秘密を解き明かしていきます。たぶん、女性も男の謎が解けて面白いと思いますよ。

まず、その秘密は「エロスとは何か？」という本質的な問いにあります。

第3章 なぜ同じものがエロくなったり、エロくなくなったりするのか？

第3章1節 エロスは「状況しだい」で変わります

「エロス」と聞くと、多くの方は「裸とか、性行為とか、そういうものそのものがエロいんでしょ？」と思うかもしれません。

でも、ちょっと考えてみてください。

エロスは、刺激そのものの中にあるのではなく、

意味・関係・物語・状況などの文脈によってムラムラと興奮してくるもの

なのです。

同じ身体、同じ行為、同じ物でも、置かれた状況が変われば「エロい」にも「臨床的」にも「日常的」にも「不快」にも「退屈」にもなります。



たとえば、以下の雨に濡れたり、風に吹かれたりする状況を見てください。

第 3 章 2 節 エロスの例①：雨に濡れる

雨に濡れる		
©オリオンヴェイル		
同じ「雨に濡れる」でも	エロくなる	エロくならない
雨	春の细雨、静かな雨	台風の土砂降り、スコール
状況	好きな人と雨宿り、近距離	通勤ラッシュでずぶ濡れ、電車遅延
服	白シャツが肌に張り付き、透け感	全身びしょ濡れ、服が重い
表情	恥ずかしそうに笑う、目が合う	イライラ、疲労、早く帰りたい
©オリオンヴェイル		©オリオンヴェイル



エロくなる雨：

春の夕暮れ、好きな人とひとつの傘に身を寄せる。
濡れたシャツが肌に張り付き、透けた肩のライン。
少し冷たい風に身を縮め、見上げた目が合うードキドキします。

エロくならない雨：

台風で横殴りの土砂降り。駅まで走って全身ずぶ濡れ。
スーツは重く、靴は水浸し。髪はぐしゃぐしゃ、寒さで唇が青い。
早く風呂に入りたいーエロさを感じる余裕はありません。

第 3 章 3 節 エロスの例②：スカートがめくれる

スカートがめくれる

©オリオンヴェイル		
同じ「スカートがめくれる」でも	エロくなる	エロくならない
風	そよ風、ふわりと舞う程度	台風の強風、立ってられない
めくれ方	一瞬、裾がふわりと浮く	バタバタ激しく翻り、巾着のように
状況	好きな人と並んで歩く、見つめ合う	駅のホームで必死に押さえる
表情	恥ずかしそうに押さえ、少し赤くなる	必死、焦り、周囲を気にする余裕なし
©オリオンヴェイル		



エロくなる風：
春の並木道、好きな人と歩いている。
ふわりと風が吹き、スカートの裾が一瞬浮く。
彼が気づいて目をそらす。あなたは慌てて押さえ、
少し顔が赤くなる—この一瞬にドキドキします。

エロくならない風：

台風の日、駅のホームで電車を待つ。
強風でスカートがバタバタ翻り、必死に押さえても追いつかない。
巾着のようにぐしゃぐしゃになり、周囲の目が気になる。
早く電車来てくれ—エロさを感じる余裕はありません。

第3章4節 つまり、エロスは文脈依存とはどういうことか？

同じ「雨に濡れる」「スカートがめくれる」でも、雨や風の強さ、状況、相手、自分の感情によって、ドキドキにもなれば、ただのイライラする災難にもなるわけです。

実は、エロスは「行為そのもの」にあるのではなく、「行為が起きている状況と物語」にあるのです。そしてAVは、この仕組みを意図的に利用して、「男に妄想させること」でエロく感じさせているのです。



AVが映しているのは「行為」そのものではなく、

「行為が起きている状況と物語」
なのです。なぜこれが重要なのか？

それは、読んでいけば痛いほど分かります。

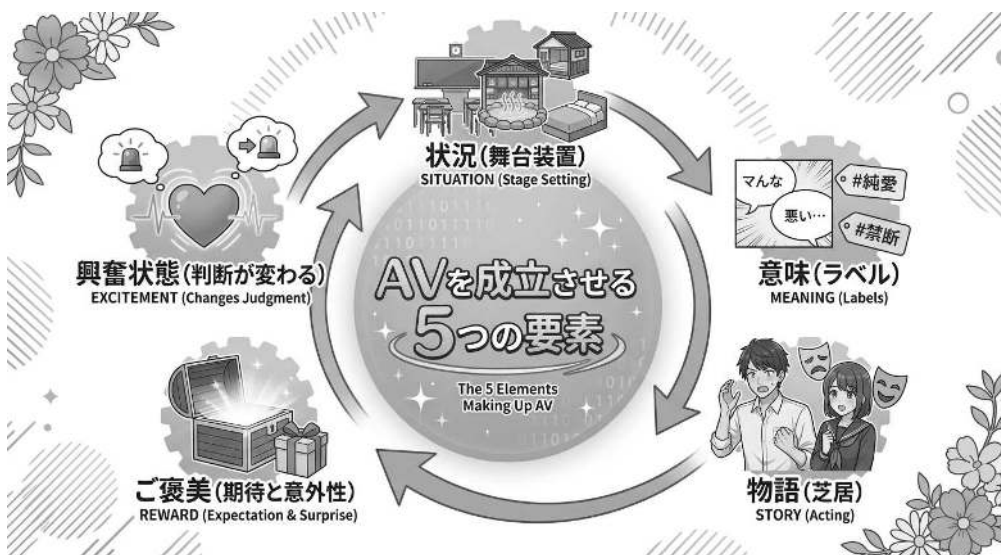
第4章 エロスは文脈（状況・意味・物語）である

第4章1節 AVを成立させている5つの要素

AVを成立させている5つの要素は、以下の通りです。

AVを成立させている5つの要素

要素	役割	具体例
状況（舞台装置）	非日常にする	学校、職場、病院、家庭、温泉、電車、配信部屋
意味（ラベル）	パッと見てわからせる	タイトル、サムネ、タグ、冒頭数十秒
物語（芝居）	欲望を起動する	抵抗➡受容、秘密、禁止、権力差、変化、結末
ご褒美（期待と意外性）	繰り返しと課金を促す	新作、続き、ガチャ、ランキング、通知
興奮状態（判断が変わる）	衝動と継続を生む	無料➡課金、エスカレート、深夜、孤独



このうち、特に重要なのが次の3つです。

- ・状況＝舞台装置

・意味＝その舞台に貼られるラベル

・物語＝その舞台で上演される芝居。

配役、欲望、秘密、障害、期待、変化、結末がある

この3つを上手く演出して男に見せて、妄想させてたくさん課金させるのがAVなのです。その仕組みを、具体的に電車やバスを例に見ていきましょう。

第4章2節 なぜ「電車やバス」がエロく見えるのか？

電車やバスは、ただの乗り物です。多くの人にとっては「通勤・通学の移動手段」であり、満員電車は不快で疲れるもの、バスはのんびりした移動の時間—それだけです。

Q.では、なぜ一部の男性にとって、電車やバスが「性的な場所」に変わってしまうのでしょうか？

その変化を、段階を追って見ていきましょう。



第4章3節 段階1：電車はもともと「中性」

まず前提として、電車やバスそのものには、エロさは一切ありません。鉄の箱に人が乗って移動するだけです。満員電車は窮屈で疲れるし、バスは揺れるし、ただの移動手段です。



この時点では、「電車＝中性」です。エロくもないし、特別な意味もない。

第4章4節 段階2：AVが「電車＝性的な場所」という状況・意味・物語を大量に供給する

ここでAVの出番です。AVの痴漢モノや電車レイプモノは、電車という舞台装置に、次のような状況・意味・物語を貼り付けます。

AVが電車に貼り付ける内容

©オリオンヴェイル

要素	AVが電車に貼り付ける内容
状況	満員電車、密室、逃げられない、声を出せない、匿名性
意味	「ここは性的なことが起きる場所」 「抵抗できない」
物語	痴漢、尾行、偶然の接触、抵抗→受容、秘密、支配

©オリオンヴェイル



AV は、電車というただの乗り物に、「性的なことが起きる舞台」というラベルを貼り、「抵抗→受容」という物語を上演するのです。

第 4 章 5 節 段階 3：視聴者がその状況・意味・物語を「学習」する

AV を見た視聴者は、脳内で次のような学習をします。

- ・「電車では痴漢が起きるらしい」

- ・「満員電車では体が触れ合うのが普通らしい」
- ・「抵抗しても最後は受け入れてしまうらしい」
- ・「電車は性的に興奮できる場所らしい」



これは古典的条件づけの典型例です。もともと中性だった刺激（電車）が、性的な快感と何度もペアになることで、電車そのものが性的刺激として機能するようになるのです。

【パブロフの犬の古典的条件づけ】

パブロフの犬の古典的条件づけは、本来は関係のない刺激と反応を結びつける学習のことです。パブロフは犬にエサを与える前にベルを鳴らす、ということを何度も繰り返しました。すると、最初はベルだけでは唾液を出さなかった犬が、ベルの音を聞いただけで唾液を出すようになりました。

つまり、古典的条件づけとは、ベルとエサを何度も一緒に経験することで、ベルがエサの合図として学習され、ベルだけで反応が起きるようになる仕組みです。

とても簡単に言いますと、ベルの後にエサを繰り返すと、ベルだけでよだれが出るようになる、ということです。

なので、犬と同じでアホな男も、電車と一緒に痴漢や性行為のシーンを見せると、電車だけで性行為の妄想が湧くようになる、ということです。



第 4 章 6 節 段階 4：刷り込みが完成し、「電車＝性的な場所」に変わる

AV を何度も見ているうちに、脳の中で「電車＝性的なことが起きる場所」という刷り込みが完成します。

ある研究では、日本 AV 産業による電車・駅などの現実場景の模倣が痴漢の誘発要因の一つとされており、「多くの心が未成熟な日本男性が、電車駅や車内で性的な妄想を抱きやすく、自分を痴漢ビデオの男の役と重ねてしまう」と指摘されています。



この段階では、電車に乗るだけで、AV で見た状況・意味・物語が自動的に思い出され、実際には何も起きていないのに、脳が勝手に興奮し始めるのです。

第 4 章 7 節 段階 5：現実の電車を「性的な場」と誤認する
 刷り込みが完成すると、現実の電車に乗ったとき、次のような認識の変化が起きます。

本来の認識と刷り込み後の認識

本来の認識	刷り込み後の認識
ただの移動手段	性的なことが起きる場所
乗客はただの人	乗客一人ひとりが「対象」に見える
混雑は不快	混雑は「接触のチャンス」
痴漢は犯罪	痴漢は「AVの再現」



つまり、AVが「電車＝性的な場所」という物語を大量に供給し、それが刷り込みとして機能することで、一部の男性が現実の電車を性的な場と誤認する—これがAVの最も分かりやすい侵略性の一つです。

第4章8節 なぜ人によってエロく感じたり、中性的に感じたりするのか？

同じ電車に乗っていても—

- 多くの人：
ただの移動手段。疲れる、混んでいる、早く降りたい。
- AVの痴漢モノを大量に見てきた人：
性的に興奮するプレイの場。乗客一人ひとりが「対象」に見える。
- 痴漢の常習者：
達成感、支配欲、スリルを味わう場。もはや性欲ではなく嗜癖行動。



つまり、「男性だからエロい」「女性だから中性」ではなく、

その人がどんな物語を学習し、共有してきたか？

が決めるのです。性別差よりも、「個人差と文化差の方がはるかに大きい」のです。

例えば、男だけでなく、AV女優や風俗嬢も仕事柄「電車＝性的な場所」と認識しているのです。逆に、AVをあまり見ていなくて、初めて日本にきた海外の男性なら、「電車＝中性」あるいは「電車＝乗り物」と認識しているのです。

第4章9節 エロスは文脈（状況・意味・物語）で変わる

ここまでの話をまとめましょう。

エロスは、刺激そのものの中にあるのではなく、文脈（状況・意味・物語）によってムクムクと興奮してくるものです。同じ電車、同じ身体、同じ行為でも、置かれた状況と物語でエロにも中性にもなるのです。なので

「エロス＝文脈（状況・意味・物語）である」

とすることができるのです。これは重要なので覚えて下さい。



そして AV は、この仕組みを意図的に利用して、男の欲望を刺激し、課金させるメディアなのです。

第2部：AVの仕組み

第5章 AVは「5大要素＋10の細要素」の「商業システム」

第5章1節 5大要素は「AV女優の演技と演出でエロく見せる装置」である

前章まで見てきたように、「エロスは文脈（状況・意味・物語）であり」、AVは5大要素を上手くエロく演出することによって男の欲望を刺激し、課金させるメディアであることが見えてきたと思います。

その中でも、特にAV女優による影響は大きく、AV女優の演技や演出が、本来エロくないものをエロく見せるための装置になっているのです。

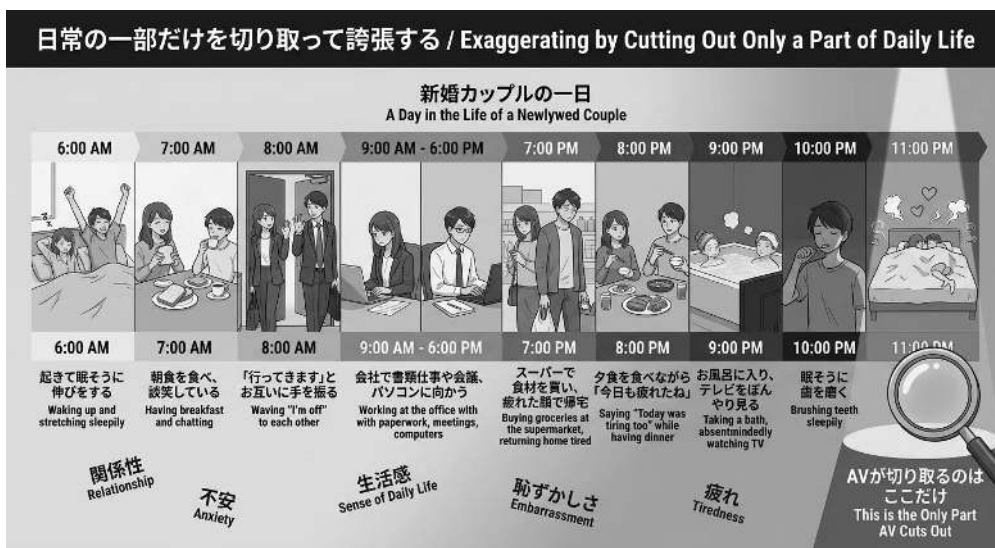
AV5大要素		
要素	役割	具体例
状況（舞台装置）	非日常にする	学校、職場、病院、家庭、温泉、電車、配信部屋
意味（ラベル）	パッと見てわからせる	タイトル、サムネ、タグ、冒頭数十秒
物語（芝居）	欲望を起動する	抵抗➡受容、秘密、禁止、権力差、変化、結末
ご褒美（期待と意外性）	繰り返しと課金を促す	新作、続き、ガチャ、ランキング、通知
興奮状態（判断が変わる）	衝動と継続を生む	無料➡課金、エスカレート、深夜、孤独



「普通に行動していたらエロくない」 —これは正しいです。

エロスは文脈（状況・意味・物語）次第です。日常の性は、関係性・不安・生活感・恥ずかしさ・疲れが混ざります。AV はそこから興奮する刺激だけを抽出し、都合の良い展開や誇張された反応を作り出します。「日常の一部だけを切り取って誇張する」のです。

例えば、下の結婚したばかりのカップルの日常生活のうち、「AV が切り取るのは 11:00PM 以降だけ」です。他はエロくないでしょ？



だから「ワザと性欲を刺激する装置」だと言えるのです。

第5章2節 なぜ5大要素だけでは説明できないのか？

答え：実際のAVは、身体・感覚、撮影・編集技術、演者の魅力、自己投影、疑似親密性、反復・習慣、事後処理、課金設計、文化的規範、個人差—これら10の細かい要素が絡み合って初めて成立するからです。

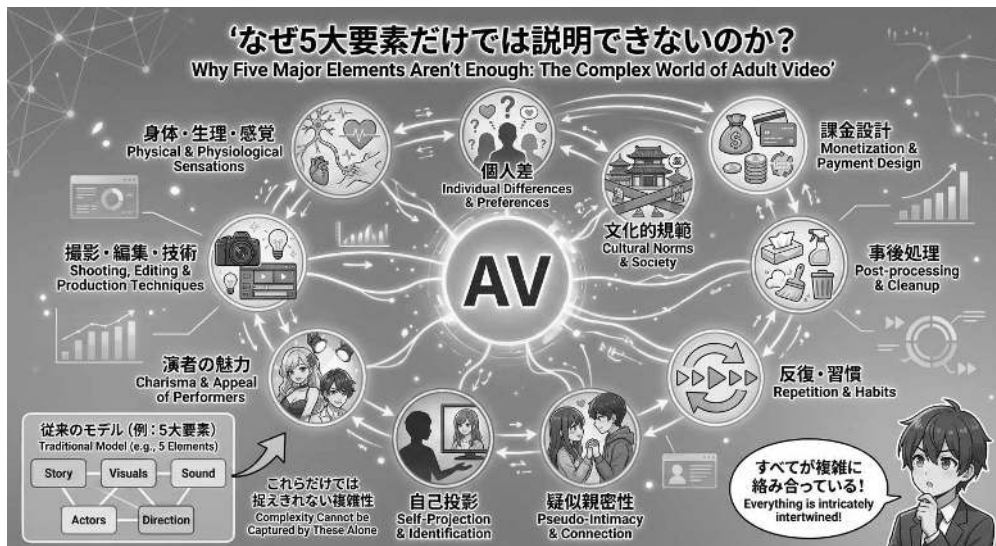
たとえば「自己投影」ひとつを取っても「視聴者は主人公に自分を重ね」、支配したい、選ばれたい、若返りたい、母性を感じたい—といった「多層的な欲望をそこに投影」します。AVは、人間の多層的な欲求を刺激するように設計されているのです。

だからこそ、同じAVを見ても、性欲を満たす人、承認欲を満たす人と、人によって刺さる場所が全く違うのです。

こちらは詳しく解説しませんが、以下のような10の細かい要素を絡み合わせて、狙ったターゲット層の欲望を刺激し、課金させるメディアなのです。

AV10の細要素

#	要素	内容	具体例・効果
1	身体・生理・感覚	視覚、聴覚、リズム、テンポ、声、汗、呼吸、絶頂、皮膚感覚の想像	ナラティブ以前に、生理的反射を直接叩く層
2	撮影・編集・技術	カメラ位置、主観視点、VR、照明、音、スローモーション、カット割り、繰り返し	同じ行為でも見せ方でエロスが変わる
3	演者の魅力・演技・反応	顔、身体、声、表情、視線、ためらい、積極性	「誰がやるか」はターゲット層ごとに最重要級
4	自己投影・同一化・代理体験	主人公に自分を重ねる、支配／被支配、選ばれる、若返る、母／妻が女に戻る	男性側のナラティブ想像の中核
5	パラソーシャル（疑似親密性）	配信者、名前呼び、DM、ファンクラブ、ランキング、投げ銭	AVよりエロ配信で強いが、AVでもシリーズ化・専属・ファン化で効く
6	反復・習慣・アルゴリズム	無限スクロール、通知、サブスク、オートプレイ、類似推薦	単発の興奮を習慣的消費に変える
7	事後処理・羞恥ループ	後悔、罪悪感、清浄化、また消費するループ	依存の悪循環を作る
8	市場・価格・課金設計	無料プレビュー、限定、コイン、投げ銭、ランキング、期間限定	現金感覚を薄め、追加課金の抵抗を下げる
9	文化的・社会的規範	何がタブーか、何が普通か、何が禁止か	文脈とナラティブの効き方を決める
10	個人差・学習・記憶	過去の経験、トラウマ、愛着、孤独、気分、ホルモン	同じ作品でも人によって効き方が全く違う



AVは「5大要素+10の細要素」で、男を騙して、没入と報酬ループで財布の紐を緩めさせて、依存させて課金させ続けて儲ける「商業システム」です。

AV は、演技と演出で性欲を刺激し、没入と報酬ループで財布を緩めるように設計されています。演技+実際の行為+演出が混ざったメディアーそれが AV なのです。

第6章 なぜAVはターゲット層ごとに最適化されるのか？

第6章1節 AVは「エロスと購買意欲が最大化するように設計」されている

前章までで確認してきた通り、AVは男を騙して、没入と報酬ループで財布の紐を緩めさせて、依存させて課金させ続けて儲ける「商業システム」です。

Q.では、その「購買意欲の最大化」は、どのように行われるのでしょうか？

答え：購買意欲が最大化するように、ターゲット層を選び、ターゲット層ごとに最適化するように設計されているからです。

それが、AVの「ジャンル」です。



第6章2節 なぜAVは「万人向け」ではないのか？

Q.なぜAVは「万人向け」ではないのですか？

答え：AVは「万人に一つ」ではなく、タグ・ジャンル・演者・シチュエーション・関係性・視点ごとに、特定の層の購買欲と繰り返し消費を最大化するように設計されているからです。

たとえば、同じ「性行為」でもターゲット層によって状況・意味・物語が全く変わります。

ターゲット層ごとの最適化

ターゲット層	刺激される欲望	状況・物語の例
熟女層	若返り、母性、禁忌、経験値	年下との関係、包容力、再燃
若年層	好奇心、承認、親密性	主観視点、素人、疑似恋愛
NTR層	嫉妬、復讐、禁忌、所有	寝取られ、略奪、背徳
主観・VR層	自己投影、親密性、窺視	一人称視点、特別扱い、所有
配信・投げ銭層	承認、特別扱い、疑似親密性	名前呼び、ランキング、DM

©オリオンヴェイル

©オリオンヴェイル



このように、AVは「どの欲望を叩くか？」をターゲット層ごとに選び、状況・意味・物語・演者・撮影・課金設計を変えることで、依存してたくさん課金させるように仕向けてあるのです。

第6章3節 AVは「フィクションの欲望世界」である

ここまでの話を整理しましょう。

AVは、フィクションの欲望世界であり「男を騙して課金させる”商業システム”」です。

- | |
|--|
| ・性欲や支配欲だけでなく、承認、親密性、所有、特別扱い、若返り、母性、禁忌、嫉妬、窃視、秘密、収集、自己効力、救済、罰、逃避、好奇心、無条件の受容、依存一人間の多層的な欲求を刺激する。 |
| ・ターゲット層ごとに最適化し、その層の視聴継続・課金・繰り返し消費・ファン化を最大化する。 |
| ・購買意欲だけでなく、サブスク更新、追加課金、シリーズ買い、ファン化、データ取得、ロコミ拡散—マネタイズ全体を狙う。 |

だからこそ、AVは「性教育の教科書にはなり得ない」のです。



AVが教えるのは「都合の良い展開」「誇張された反応」「抵抗➡受容」—「現実の性とは真逆の内容」です。

第3部：同じ女性なのにエロくなったり、エロくなくなったりする仕組み

第7章 なぜ「同じ女性」がエロくなったり、なくなったりするのか？

第7章1節 エロスは状況しだいであり、AVはフィクションの欲望世界である

ここまでの話を踏まえて、「エロスは文脈（状況・意味・物語）である」ということをさらに深く考えてみましょう。

Q.なぜ「同じ女性」がエロくなったり、なくなったりするのでしょうか？

答えはシンプルです。エロス（状況・意味・物語）次第であり、AVはフィクションの欲望世界だからです。

例えば、どんな美人でも、長く一緒にいると飽きます。

これは決して「女性が劣化した」からではありません。「フィクションや幻想が解けていくから」です。これは、男女関係なくお互いに言えることで、

「理想の女性だと思ったら、結婚したら粗が見えてきた」

「理想の彼氏だと思ったら、結婚したら幻滅してきた」

という現象が起きるところまでは男女共通です。女性だけが劣化する訳ではありません。

【結婚の名言】

例えば、リヒテンベルク（ドイツの物理学者・作家）は次のような名言を残しています。

「恋は人を盲目にするが、結婚は視力を戻してくれる。」

この名言は、恋愛中では見えなかった相手の欠点が見えてくることを巧みに表現しています。

つまり、「結婚して、フィクションや幻想が解けたこと」を表しています。



第7章2節 男の主観的な言い訳

しかし、男たちは、自分のことは棚に上げて、次のように女性（妻）に責任転嫁する発言をすることがよくあります。

「歳をとって劣化したから、性欲が湧かない」

「昔は綺麗だったのに、今は違う」

「化粧をしなくなったから、女として見られない」

「スタイルが崩れたから、女性としての価値が下がった」

「服装や身だしなみに気を使わなくなった」

「出産して、可愛くなくなった」

「自分は悪くない。相手が変わっただけだ」

「俺は何も変わっていない。妻が魅力をなくした」

「拒否するのは、愛情がない証拠だ」

「エロくないと、女として終わりだ」

「子どもができたら、女じゃなくなる」

「マンネリで新鮮味がない。昔のようなドキドキがない」

「AV なら、もっとやってくれる」

「フィクションと一緒にしないでと言うけど、努力が足りない」



Q.この男の主観的な言い訳や合理化は本当に正しいのでしょうか？

筆者は残酷なので、それを詳しく分析して、検証していきます。

皆さんも一緒に、旦那の言い訳を1つずつ確認していきましょう。

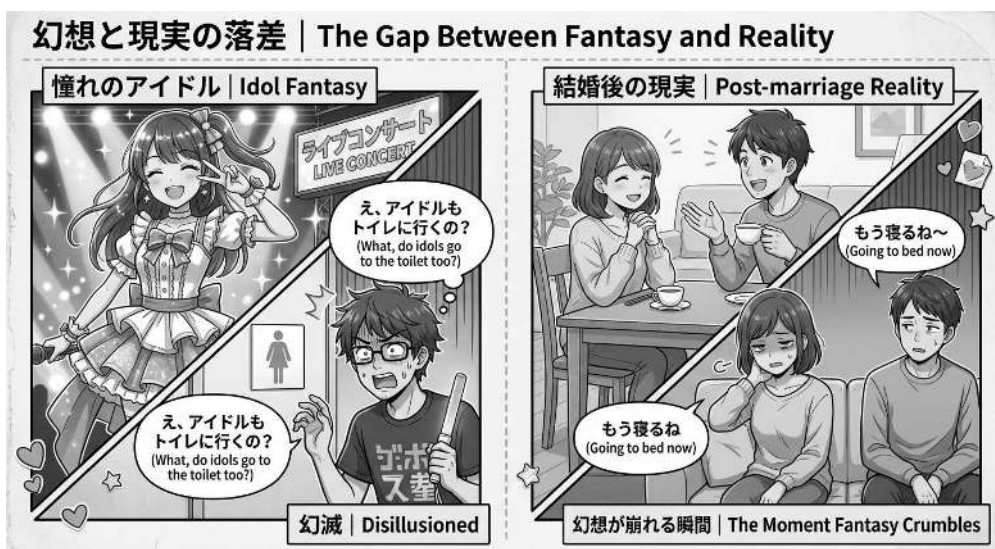
第7章3節 ウンコしないはずのアイドルがウンコして幻滅するのと同じ

まずは、「エロスは文脈である」ということを復習しておきましょう。同じ人間でも状況次第では、エロくなったり、エロくなくなったりするのですよね。

例えばアイドルはステージの上では完璧な存在に見えます。汗をかかず、トイレに行かず、常に笑顔で、ファンを大切にしてくれる。しかし、現実のアイドルも人間です。オナラするし、ゲップするし、不機嫌になるし、ファンの思い通りには動きません。それに気づいた瞬間、幻想は崩れます。ステージの状況ではエロく完璧だったアイドルが、ウンコしてる状況では幻滅してしまうのです。

同じことが結婚生活にも起きます。結婚前は「あなたの話を笑顔で聞いてくれる」「いつも綺麗でいてくれる」「セックスも応じてくれる」—それが幻想です。

結婚して2～3年も経てば、彼女は男のつまらない話を笑顔で聞いてくれなくなる。疲れている日は不機嫌になる。セックスを拒否することもある。これが現実です。結婚して2～3年も経てば、現実のエロくなくなります。



要するにエロスは幻想や虚構の上に成り立っているのです。

第7章4節 なぜ浮気が「新しい物語」と言われるのか？

第7章4節1項 浮気が楽しいのは義務や責任などの現実が無いから

不倫や浮気が「新しい物語」と言われるのは、そこに「秘密」「タブー」「新鮮さ」「相手を理想化する気持ち」「認めてもらえる喜び」「禁じられているからこそ盛り上がるドキドキ」といった、強い色気を感じさせる要素が詰まっているからです。

たとえば、毎日のパートナーとの関係には「生活（現実）」があります。一緒にご飯を食べ、掃除をし、お金の話をし、子供を育て、親を介護する。養う責任もあれば、養育の義務もある。それはそれで大切なことですが、どうしても「現実」になってしまう。



一方、不倫相手との関係には、そうした「生活（現実）」がありません。養う責任も、養育の義務も、家計の心配も、子供の送り迎えもない。あるのは「物語」だけです。会えるのは秘密の時間だけ。だから、その時間はとても特別に感じられるのです。



つまり、同じ人間でも、相手との関係に「生活（現実）」がどれだけあるかで、感じ方がまったく変わります。

浮気の原因はそれだけではありませんが、「男女を問わず、何らかの現実の責任や義務からの逃避が大きな要因の1つであるのは間違いない」でしょう。

ここで、次のようなとても大事な仕組みがあります。

第7章4節2項 不倫相手と離婚して結婚したら、どうなるでしょうか？

すると、その新しい相手との間にも、「生活（現実）」が生まれます。

一緒に住み、お金の話をし、子供を育て、家事を分担する。養う責任も、養育の義務も出てくる。すると、かつて「物語」だけだった関係が、今度は「現実」に変わってしまうのです。

そして、その「現実」が邪魔になると、また別の相手を探して、新しい「物語」を求めて不倫する—これが、浮気を繰り返す人の典型的なパターンです。



つまり、「長期関係には物語がない」わけではありません。

長期関係には「安全」「日常」「責任」という別の物語があります。

でも、その物語が強すぎると、性的なドキドキを抑えてしまったり、薄れてしまうことがあるのです。



そして、不倫はそれとは別の種類の物語を提供してくれます。

義務や責任から逃れて「物語」だけを追い求めても、「現実」からは逃げられない。



そして、逃げた先にも必ず「現実」が待っている—これが、浮気が「新しい物語」と言われる所以なのです。

第7章 4 節 3 項 2 人の女性の人生を破壊する「独身偽装」

浮気男の無責任さは、不倫だけにとどまりません。さらに悪質なのが、「独身偽装」です。

独身偽装とは「既婚者でありながら”独身”や”バツイチ”などと嘘をついて交際する行為」です。この被害を訴える女性が増えており、2024年には「独身偽装被害者の会」も設立されています。

Q.なぜ、こんなことが起きるのでしょうか？

それは、先に見た「浮気の構造」とまったく同じだからです。

- ・既婚者である現実から逃れたい
- ・責任や義務のない「新しい物語」が欲しい
- ・相手に本当の自分を見せず、都合の良い「独身」という役を演じる

・その役を信じた女性が、妊娠という現実を背負う

つまり、「自分の現実逃避のために、妻や浮気相手の人生を巻き込んで壊している」のです。実際に、こんな事件がありました。

30代の女性が、知人からの紹介で知り合った男性から「バツイチだ」と聞かされ、約2年間交際しました。結婚を前提に婚約指輪を発注し、男性は女性の両親にもあいさつ。さらに二人で不妊治療にも取り組み、2024年に女性が妊娠しました。

しかし、結婚の話が進まないことに不審を抱いた女性が問い詰めると、男性は「既婚者であることを告白」。女性は後に子どもを出産し、シングルマザーとして抑うつ状態で精神科に通院しながら子育てをしています。

つまり、「自己中で無責任な男が、2人の女性の人生を同時に破壊した」と言えます。一人は、「裏切られた妻」。もう一人は、「独身と信じて妊娠までした女性」。

そして、まだ大きな問題になっていませんが、生まれてきた「子どもの人生」まで。

まあ、中には特殊なケースもあるかもしれませんが、不倫も独身偽装も、根っこは基本同じです。

「現実から逃げたい」

「責任を取りたくない」

「新しい物語だけを楽しみたい」

その結果、自分の欲望を満たすために、他人の人生を平気で犠牲にする。

これが、浮気を繰り返す男の正体なのです。



第7章5節 既婚女性の方へ——結婚生活を振り返ってみてください

この記事を読んでいる既婚女性の方に、一つ問いかけたいと思います。

結婚前と今、ご主人のあなたへの接し方は変わりましたか？

結婚前は「綺麗だね」「会いたい」「何してるの？」と頻繁に連絡してきたのに、今はどうでしょう。家ではお互いに疲れていて、会話も減り、スキンシップも減っていませんか？

それは、ご主人のエロスの対象が「幻想のあなた」から「現実のあなた」に変わったからです。幻想のあなたは、いつも綺麗で、いつも笑顔で、いつも応じてくれる—そんな存在でした。現実のあなたは、疲れるし、機嫌も悪くなるし、拒否もする。それが当たり前ののです。



問題は、ご主人がそのギャップを受け入れられるか？です。

幻想を押しつけ続けるなら危険男。

現実を受け入れて、二人で新しい関係を築こうとするなら健全。

この違いが、その後の結婚生活を大きく左右します。

理想の妻を求め続け、従わないと攻撃する—それは危険男です。

第 8 章 男性が女性に責任転嫁する言い訳の分析

第 8 章 1 節 男性側の主観的な言い訳を分析する

男性側の主観的な言い訳・合理化の言い訳を分析すると以下のような表になります。甘えた無責任男には残酷な結果です(苦笑)。

男性が挙げがちな理由と裏の心理		
男性が挙げがちな理由	よくあるセリフ	裏にある心理・実際のメカニズム
歳をとって劣化した	「歳をとって劣化したから、性欲が湧かない」	自分の加齢への不安やコンプレックスを、相手の変化に投影している。実際は「相手が劣化した」のではなく、自分の幻想や新鮮味が減っただけ。
昔は綺麗だったのに、今は違う	「昔は綺麗だったのに、今は違う」	過去の記憶と現在を比べ、幻想の女性像を押しつけている。相手は同じ人間でも、関係性・役割・生活が変われば見え方も変わる。
化粧をしなくなった	「化粧をしなくなったから、女として見られない」	日常の安全圏に入った相手に、非日常の幻想を求めている。自分も努力していないのに、相手だけに「女としての努力」を要求している。
スタイルが崩れた	「スタイルが崩れたから、女性としての価値が下がった」	女性の価値を外見やエロさに結びつける危険な考え方。自分の体型変化や加齢には目を向けず、相手だけを評価している。
身だしなみに気を使わなくなった	「服装や身だしなみに気を使わなくなった」	生活感が前面に出て、非日常の物語が消えたことを指摘している。しかし自分も同じように変わっていることを省みない。
出産して可愛くなくなった	「出産して、可愛くなくなった」	役割変化(妻→母)でエロスの文脈が変わったことを、相手の「魅力低下」にすり替えている。母性と性欲を混同している。
自分は悪くない、相手が変わった	「自分は悪くない。相手が変わっただけだ」	自分の責任や努力不足から目をそらし、関係の変化を一方的に相手のせいにしていく。自己正当化と被害者意識の典型。
俺は何も変わっていない	「俺は何も変わっていない。妻が魅力をなくした」	自分は変わっていないという思い込みで、相手の疲労・体調・生活の変化を無視している。関係は双方向に変わるものだと思っていない。
拒否するのは愛情がない証拠	「拒否するのは、愛情がない証拠だ」	性行為への同意と愛情を同一視している。相手の体調・気分・事情を無視し、自分の欲望を優先している。
エロくないと女として終わり	「エロくないと、女として終わりだ」	女性の存在価値を「エロさ」だけに還元している。相手を人間ではなく機能・役割として見ている危険な発想。
子どもができたら女じゃなくなる	「子どもができたら、女じゃなくなる」	母性と性欲を対立させ、母親になった相手を「女ではない」と決めつけている。役割の変化を勝手に解釈している。
マンネリで新鮮味がない	「マンネリで新鮮味がない。昔のようなドキドキがない」	慣れと予測可能性がドーパミンを減らすのは事実だが、自分で関係を工夫せず、相手に責任を転嫁している。
AVならもっとやってくれる	「AVなら、もっとやってくれる」	フィクションと現実を混同し、演じられたペルソナを現実の女性に要求している。相手をAV女優の代替として扱っている。
フィクションと一緒にするなと言うけど努力が足りない	「フィクションと一緒にしないで言うけど、努力が足りない」	自分の非現実的な要求を「努力不足」という言葉で正当化している。相手の同意や限界を軽視し、幻想を押しつけている。



第 8 章 2 節 男の言い訳を正しく分析すると「単なる妻への責任転嫁」

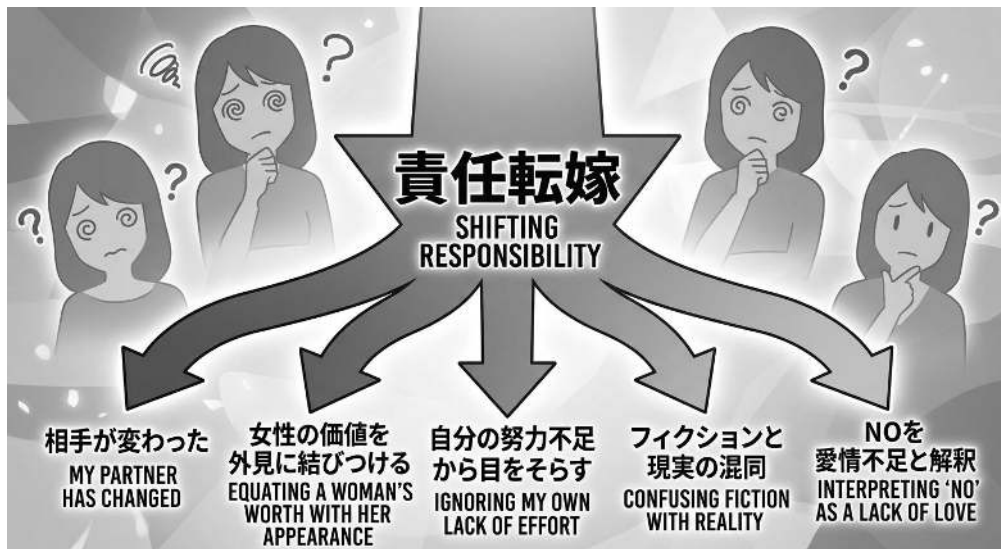
これらの言い訳に共通しているのは、まず「相手が変わった」という前提です。歳をとった、化粧をしなくなった、出産した、スタイルが崩れた—そうした変化を「妻の劣化」と呼び、自分の性欲が湧かない理由にしています。しかし実際には、相手が劣化したのではなく、自分の幻想や関係の文脈が変わっただけです。

次に、女性の価値を「エロさ」や「外見」に結びつけています。「エロくないと女として終わり、子どもができたなら女じゃなくなる」—こうした「ルッキズムの価値観」や言葉の裏には、「相手を対等の 1 人の人間ではなく、自分の性欲処理の役割や機能として見る態度」があります。

さらに、「自分の変化や努力不足から目をそらして」います。自分も歳をとり、体型が変わり、生活感が出ているのに、相手だけに非日常や女としての努力を求めているのです。「自分が性欲が湧かないのは女のせい」と言う責任転嫁スタイルです。

そして、フィクションと現実を混同しています。「AV ならもっとやってくれる、風俗ではこうだった」—演じられた虚偽の女性像を現実のパートナーに押しつけ、それに応じないことを「”努力不足”と決めつけて」います。

最後に、「女性が拒否することや NO を”愛情がない証拠」と幼稚な解釈」します。性行為への同意と愛情を同一視し、相手の体調や気分、事情を無視して、自分の欲望を優先しているのです。まるで、おもちゃを買って貰えなくて駄々をこねる「幼稚でワガママな幼児と同じであること」が一目瞭然だと思います。



つまり、共通する構造は

「相手のせいにして、自分の幻想を押しつけている」

という点に集約されます。

第8章3節 他国の男性と比較して、幼稚な日本人男

「”言い訳と責任転嫁ばかり”の日本人男」ですが、一応他国の男性とも比較しておきましょう。「イデオロギーがー」とか言わないように、西側資本主義のイタリア人男性■やスウェーデン人男性■、アメリカ人男性■に登場して貰います(苦笑)。

■イタリア人男性と日本人男の断られ方の違い

例えば、イタリアの恋愛文化では、「声をかけること」自体が礼儀とされ、「断られることは最初から大前提」です。そのため、断られた時の反応は非常にあっさりしているのが特徴です。断られても「魅力的な方とお話しさせてくれてありがとう」と感謝を述べて去るのが一般的です。

一方で、日本人男は、デートや夜の誘いを断ると、不機嫌になったり怒り出したりする幼稚で未熟な男が多いと言われています。



■スウェーデン人男性の家事や育児

スウェーデンでは、育児休暇中の父親が公園やカフェで子どもと過ごす「ラテパパ」として、日常の風景に溶け込んでいます。彼らは子どもの着替えや歯磨き、遊び相手をしながら、同時に掃除や洗濯もこなします。ベビーカーを押し

ながらスーパーで買い物をするのも、父親の日常です。男性が家事や育児をするのは「当たり前すぎて特筆するのが滑稽」とされるほど、社会に深く浸透しています。



■ アメリカ人男性の家事や育児

意外かもしれませんが、アメリカの男性は、育児や家事を「ハンズオン（積極的に関与する）」ものとして捉え、特に子どもの送り迎えや遊び相手といった直接的な育児に多くの時間を割いています。公園では7割以上が父親だけで子どもを連れてきて遊ばせており、学校の送り迎えも父親が担当することが多いです。

家庭内でも、洗濯や掃除、食器洗いは夫婦で協力して行い、52%の男性が日常的に料理をし、平均調理時間は1日約50分に達しています。ただし、車のメンテナンスや庭仕事といった伝統的に「男性向け」とされてきた家事は、依然として男性が担当する傾向が強いです。

意外でしょうが、対等な相手として夫婦間でちゃんと話し合って役割分担を決めているから、こんな結果になるのでしょうか。



● 日本人男性の家事や育児

一方、日本人男性の多くは、甘やかされて母親が何でもやってくれた環境で育ったため、「ご飯作って」「片付けといて」など、女性が自分のために尽くすことを当然だと思っているケースが少なくありません。

実際に、40代男性の約7割が「ほとんど料理をしない」と回答しており、一人暮らしでは料理をしても、配偶者がいるとしなくなるというデータもあります。また、79.3%の男性が「家事を積極的にしている」と自己評価していますが、妻が「夫は積極的だ」と認めているのは63.9%にとどまり、15ポイント以上の認識の差があります。

まあ、全体的に日本人男は甘やかされているので、日本人男が幼稚でワガママなのは間違いないようです。むしろ、海外の男性と比較して、日本人男は「妻に依存して搾取して寄生している」と言っても過言ではないのかもしれませんが。だから、妻が離婚しようとする「依存先や搾取する寄生先がなくなるから」執着して粘着なストーカーするのかも？しれません。

第8章4節 責任転嫁する無責任男は、浮気に走る

こうして、責任転嫁した愚かな無責任男は、

「NOと言われると、男として否定された気分になる」

「我慢させられるくらいなら、外で満たすしかない」

「拒否する方が、関係を壊している」

「断られたから、怒るのは当たり前だ」

「拒否するなら、浮気されても文句は言えない」

などと言って、浮気や風俗通いを正当化し始めるのです。



第4部：AV女優と現実女性は「別物」

第9章 AV女優と現実女性は、なぜ「別物」なのか？

第9章1節 なぜAV女優と現実女性を混同してはいけないのか？

Q.なぜAV女優と現実女性を混同してはいけないのでしょうか？

答え：AV女優は実在の女性ですが、AVで見えているのは「AV女優という役を演じている姿」であり、現実の女性は役を演じているわけではないからです。

例えば、テレビドラマの看護師役を演じている女優さんがいますよね。ドラマの中では、どんなに「白衣の天使」で病人に優しくても、現実のその女優さんが同じように振る舞うとは限りません。

AV出演女優 JP/EN		現実の女性 JP/EN	
目的	Purpose	目的	Purpose
撮影現場の演出	Directed scenes	自然な生活	Natural life
演技としての反応	Acting responses	本心の反応	Genuine responses
物語としての設定	Story settings	日常の出来事	Daily life
身体表現のプロ	Physical expression pro	一般の生活者	General person
同意に基づく出演	Consensual appearance	私的な境界	Personal boundaries
撮影後の切り替え	Switching after filming	継続する人生	Continuous life

AVの女性と現実の女性

項目	AVの女性（フィクション）	現実の女性
目的	視聴者を興奮させる	関係、快楽、安心、同意
同意	契約・撮影・演出の上で成立	毎回、途中でも確認が必要
状況	密室、偶然、禁止、非日常	生活、仕事、疲労、育児、体調
身体	照明、メイク、編集、選別	多様、生理、痛み、疲れ
反応	誇張、演技、指示、編集	個人差、気分、ムラ
物語	抵抗➡️受容、都合よい展開	会話、調整、失敗、気まずさ
事後	余韻、次回予告	ケア、会話、生活

それと同じで、AVに出ている女性も「AVの世界の役」を演じているのです。

第9章2節 AVと現実の最大のギャップは同意とプロセスの省略

ここで最も大きなギャップは、同意とプロセスの省略です。

現実の性は同意・確認・会話・調整が不可欠ですが、AVはそこを短縮・省略・演出します。また、相手の欲望の誇張もあります。

また、第12章のセリフで詳しく紹介しますが、AVではAV女優が「生チ●ポ、挿れてください」「中に出して……♡」などと自分のことを求めて欲しがりますが、現実では相手の女性にも気分・都合・好みがあって、「自分のことを求めてくるとは限りません」。



第9章3節 なぜ「AVはフィクションの欲望世界」と言えるのか？

Q.なぜ「AVはフィクションの欲望世界」と言えるのでしょうか？

答え：AVは実際の行為や身体を使いながら、編集・演出・物語で虚構の欲望世界を作っているからです。「現実に近いとエロスが減り、売れにくくなるから」です。

AVは「現実の性行為をそのまま記録したもの」ではありません。演技＋実際の行為＋演出が混ざったメディアです。だからこそ、「現実にはあり得ないことがたくさんあります」。逆に言うと、「現実の女性と、AVの中で演じられている女性像との間に、最大のギャップが生まれる」のです。

たとえば、AVでは「最初は嫌がっていた女性が、最後には自分から●ぽや快楽を求めてくる」という展開がよくあります。しかし現実では、嫌なものは嫌なままです。AVでは「"相手が"自分のち●ぽを欲しがってくれる」のが当たり前」ですが、現実では相手の女性にも気分や都合や好みがあります。

つまり、AVは「男の都合の良いように作られた、空想の世界」なのです。

「それを現実の女性に押しつけると、大きな誤解と不満とトラブル」が生まれます。



第10章 AV と似た「幻想を売る職業」には何があるのか？

第10章 1 節 なぜ AV 以外にも「男の願望の女性を演じる職業」が存在するのか？

Q.なぜ AV 以外にも「男の願望の女性を演じる職業」が存在するのか？

答え：決められた“幻想の役”を演じ、お客さんがそこに自分の欲望を重ねて楽しむ商売だからです。

世の中には、AV 以外にも「男の理想や空想の女性”を演じてくれる仕事」がたくさんあります。たとえば、キャバ嬢、メイド喫茶のメイド、レースクイーン、アイドル、レンタル彼女、レンタル家族、Vtuber、配信者—これらはみんな、「男の理想や空想の女性”を演じることでお金をもらう仕事です。

幻想を売る職業カテゴリ

カテゴリ	職業・役割
性風俗・アダルト演技系	AV女優、風俗嬢、メンズエステ、チャットレディ、カムモデル
擬似恋愛・接客系	キャバ嬢、クラブ嬢、ラウンジ、コンカフェ、メイド喫茶
レンタル・代行・癒し系	レンタル彼女、レンタル家族、添い寝、耳かき、家事代行
アイドル・芸能系	アイドル、グラビアアイドル、レースクイーン、コンパニオン
配信・オンライン系	ライバー、ストリーマー、ASMR配信者、Vtuber



例えば、エルフのコスプレをした女性とかは、「男の理想や空想の女性」を演じて」お金をもらう仕事であることは分かりますよね？

そもそも「エルフは実在しない空想のキャラクター」ですから。

A Job of Getting Paid for Acting a Fictional Woman—Cosplayers and Vtubers (架空の女性を演じてお金をもらう仕事—コスプレイヤーとVtuber)



第10章2節 「幻想を売る商売」は虚構だからトラブルになりやすい

これらの仕事に共通しているのは、「性行為」や「会話」そのものを売っているのではなく、「特別な気分”や”夢”を売っている」という点です。

たとえば、キャバ嬢は「あなたは特別よ」と言ってくれる。メイド喫茶のメイドは「おかえりなさい、ご主人様」と笑顔で迎えてくれる。レンタル彼女は「今日はデートみたいだね」と手をつないでくれる。お客さんは、その「自分だけに向けられた特別な優しさ」に感動して、お金を払う」のです。



でも、ここが大事です。

演じている人は、現実の人間です。彼女たちにも、嫌なこと、やりたくないこと、ルール、時間の制限、お金の条件、そして限界があります。もしお客さんが「この子は本当に自分を好きなんだ」「自分のために何でもしてくれるんだ」と勘違いして、幻想と本人を混同してしまうと、ストーカー、暴力、無理な要求、依存、そして犯罪につながってしまいます。

つまり、これらの職業は「幻想を売る商売」であり、「お客さんはその幻想を楽しむために払うお金」なのです。でも、それはあくまで「演じられた幻想」であって、現実の人間関係ではありません。

この区別ができないと、とても危険なことになるのです。

第 10 章 3 節 なぜ従事者は「演技」をするのか？

Q.なぜ従事者は「演技」をするのでしょうか？

答え：それが仕事だからです。お金をもらうためのスキルであり、お客さんを楽しませるための「サービス」でもあります。

AV 女優の神野藍さんは、AV の世界を「視聴者受けをよくするには、いかにウソをつけるか？」の世界だと話しています。また、「演技をすることはプラスだけど、個人の『私』としてはマイナスだったかな？」とも語っています。

風俗嬢の人はこう言います。「『全部演技』でも『全部本気』でもない。その間のグラデーションの中に、あなたへの気持ちがある」。

また、「結論から言えば、ほとんどは演技。男性の夢を壊すようだけど、風俗の女の子はほぼ演技をしてる」とはっきり言う人もいます。

キャバ嬢からは、「『ご飯行こうね！』👉絶対行かないやつ」という本音も聞こえてきます。「仕事だから相手の気分を良くするように、建前で営業トークしてるだけ。割り切れない男の人はキャバ遊びに向いてない」という、とても割り切った意見もあります。

メイド喫茶の元メイドは、「メイドさんは裏の顔があります」と言い切り、「裏では『こいつ何考えてんの？！ヤバイ！！』みたいな気持ちになっています」と明かしています。



つまり、従事者は「演技」をしているのであって、「本心」でお客さんに尽くしているわけではありません。でも、お客さんはその演技を本心だと勘違いしやすいのです。

第 10 章 4 節 なぜこれらの職業は「危険」なのか？

Q.なぜこれらの職業は「危険」なのでしょう？

答え：端的に言えば「嘘をついて演じて騙す商売だから」です。「現実と演技の区別がつかず、騙されたと逆上する男も多い」のです。

これらの仕事は、「男の欲望を満たすために演じる」ことでお金を得ています。でも、演じているだけなので、お客さんが勘違いして「本当に自分を好きなんだ」と思い込むと、現実とのギャップに苦しみます。

そして、「そのギャップに耐えられず、騙された」と逆上する男も多いのです。ストーカー行為、暴力、無理な要求—こうしたトラブルが絶えないのが、この商売の危険なところなのです。



「区別がつかず、ハマる男ほど大金を落としてくれるお客さんが上客ですが、勘違いする危険性も高い」訳です。

まさに「諸刃の剣のような商売」なのです。

まあ、元々勘違いされやすい上に拍車をかけているのが AV だったりするのです。

第 11 章 なぜ「危険男」が増えているのか？

第 11 章 1 節 なぜ空想を現実女性に押しつける男が増えているのか？

Q.なぜ空想を現実女性に押しつける男が増えているのでしょうか？

答え：お金で空想を実現してくれる職業が増えたこと、そして「男尊女卑の戦前の良妻賢母思想」が「男たちやジジババを中心に蔓延したこと」で、勘違いする男が増えているからです。

まず、1 つ目の理由はお金で空想を実現してくれる職業が増えたことです。AV、風俗、キャバクラ、メイド喫茶、レンタル彼女—これらはすべて「お金を払えば、理想の女性を演じてくれる職業」です。これらの職業が身近になりすぎた結果、「”女はお金で理想通りに動いてくれるもの” という誤った認識を持つ男が増え」ました。

2 つ目の理由は男尊女卑の戦前の良妻賢母思想が男たちやジジババを中心に蔓延したことです。「女は男に従うべき」「妻は家庭を守るべき」「母は無償で尽くすべき」—こうした戦前の価値観が、いまだに多くの男たちやジジババの間で根強く残っています。そして、その思想が家庭内で子どもや孫に伝わることで、「良妻賢母は”幻想ではなく現実である” と勘違いする男が増えている」のです。

こうした 2 つの背景が重なることで、「空想の女性像」を「現実の女性」に押しつける男が増えているのです。年齢や AV 視聴そのものが問題なのではありません。

問題は、「空想を現実の女性に押しつけ、従わないと攻撃すること」です。



では、逆に女性が BL を楽しむ場合はどうでしょうか？もし女性が「現実の男性全員が BL の登場人物のように振る舞うべきだ」と言い出したら、それは反発しますよね？多くの女性は現実の男性に「BL みたいに振る舞え」と要求したりはしません。

もし言い出したら、それは警戒すべき「異常女」や「危険女」です。

第 11 章 2 節 危険男の特徴

危険男には、以下のような特徴があります。

危険男の特徴

©オリオンヴェイル

特徴	具体例
女性を役割で見る	「女はこう」「妻はこう」「母はこう」
空想の女性像を押しつける	AV女優、風俗、戦前の良妻賢母
現実の女性を人間として見ない	疲労、生理、体調、仕事、育児、拒否権を無視
同意より従順を求める	「嫌」と言わせない、「今日は無理」を許さない
NOへの反応が攻撃的	怒鳴る、無視する、脅す、罪悪感を植え付ける
共感が薄い	相手の痛みより自分の満足が優先
自己正当化する	「普通の夫婦はこう」「男なら当然」
被害者意識が強い	元妻、元カノ、母、職場の女性を全員悪者にする
外面は良いが内面は支配的	外では優しい、家では態度が変わる
反省しない	謝っても繰り返す、話し合いが成立しない

©オリオンヴェイル

©オリオンヴェイル



これらの特徴に共通しているのは、「相手を人間ではなく、自分の欲望を満たすための役割として見ている」という点です。

東南アジアでの児童買春を自慢する投稿をするような犯罪者男は、少女を「生体オナホール」と呼び、「人間扱いしない投稿」をしています。

第 11 章 3 節 なぜ「危険男」を見抜く必要があるのか？

Q.なぜ「危険男」を見抜く必要があるのでしょうか？

答え：危険サインを早期に察知しないと、支配・強要・暴力へとエスカレートするからです。

見抜き方の核心は、小さな NO への反応です。「今日は無理」「それは嫌」「やめて」と言った時、尊重するか、不機嫌・怒り・罰で返すか。これが最重要です。

また、疲れている時の気遣い、弱い立場への態度、元パートナーや母の語り、性の話での同意・避妊・事後ケアの有無、家事・育児への姿勢、謝罪と行動—これらを観察してください。

危険サインとしては、監視、GPS、スマホチェック、友人・仕事・外出の制限、経済支配、脅し、物を壊す、壁を叩く、同意なき性行為、避妊拒否、撮影強要、別れ脅迫、自殺脅迫、暴力、監禁—これらが出たら、話し合いで解決しようとしなくてください。距離を取り、安全を確保し、最近では、警察や検察も性加害を平気でして、隠蔽工作するので、信頼できる人を探して相談してください。

「危険男は、あなたの人生を壊す存在」です。

「壊されて手遅れになる必要はなく、我慢する必要はありません」。



第5部：AVと現実のギャップ

第12章 なぜAVやエロゲーのセリフは「演技」なのか？

第12章1節 なぜAVやエロゲーのセリフは「現実の性」とは異なるのか？

Q.なぜAVやエロゲーのセリフは「現実の性」とは異なるのか？

答え：AVやエロゲーのセリフは、「視聴者の欲望を刺激し、物語を進行させ、射精に導くために設計された”虚構の言語”」だからです。

まずは、AVやエロゲーでよく使われるセリフと、それが「男性のどのような欲求を刺激するのか？」を見てみましょう。

AVのセリフと該当する欲求

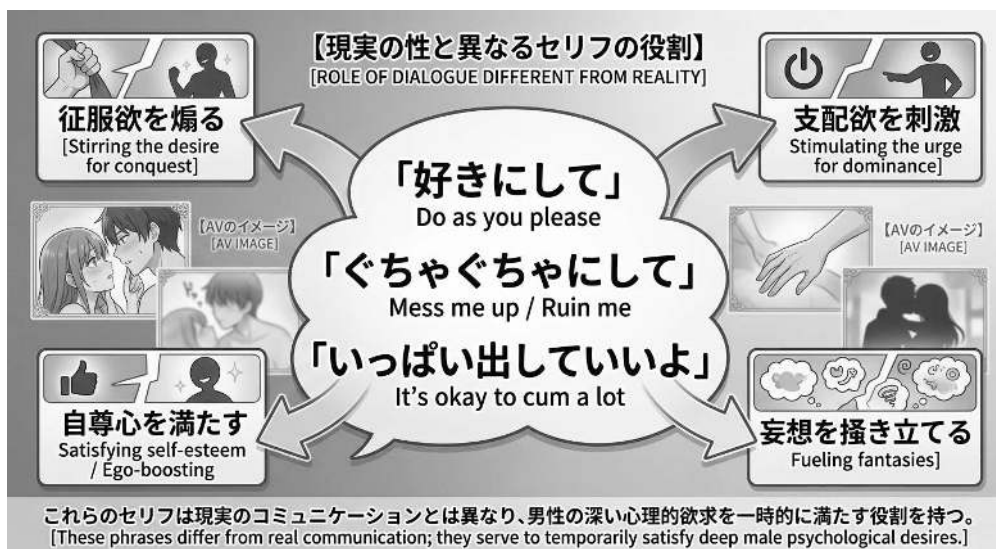
©オリオンヴェイル

AVやエロゲーのセリフ	該当する欲求
「好きにして」	征服欲を煽る、支配欲を刺激
「ぐちゃぐちゃにして」	征服欲を煽る、支配欲を刺激
「めちゃぐちゃにして」	征服欲を煽る、支配欲を刺激
「いっぱい出していいよ」	征服欲を煽る、支配欲を刺激、精子を求める
「〇〇君の好きにして」	支配欲を刺激
「言わなきゃダメ？」	支配欲を刺激
「奥まで入ってる」	征服欲を煽る、妄想を掻き立てる
「一緒になりたい」	征服欲を煽る、妄想を掻き立てる
「いっぱい入ってる」	征服欲を煽る、妄想を掻き立てる
「奥まで入ってるね」	征服欲を煽る、妄想を掻き立てる
「私もビチョビチョだよ」	征服欲を煽る、妄想を掻き立てる
「もう我慢できない」	征服欲を煽る、自尊心を満たす
「もっと突いて」	征服欲を煽る、自尊心を満たす
「待ち遠しかった、セックスしたい」	征服欲を煽る、自尊心を満たす
「早く、早く来て～」	征服欲を煽る、自尊心を満たす
「気持ちよすぎてイッちゃう」	征服欲を煽る、自尊心を満たす
「こんなに〇〇なの初めて」	征服欲を煽る、自尊心を満たす
「すごく硬くなってるね」	自尊心を満たす
「私がいっぱいしてあげる」	自尊心を満たす
「すごく気持ちいい」	自尊心を満たす

©オリオンヴェイル

©オリオンヴェイル

AV やエロゲーでは、女性キャラクターが男性器を直接的に求めるセリフが数多く存在します。「チ●コ、挿れてください」「生チ●ポ、挿れてください」「精子……」「赤ちゃん欲しいです……」—これらは最も直接的で、最も物語を加速させる言葉です。



第 12 章 2 節 「中出しを欲しがる」セリフ

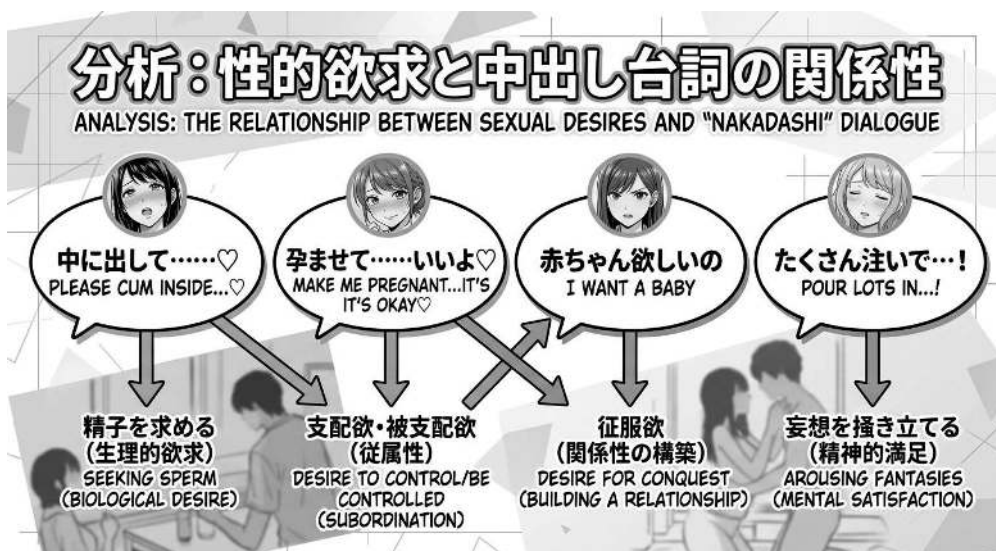
例えば、AV やエロゲーでは「中出しを欲しがる」セリフが沢山出て来ます。

中出しを欲しがるセリフ

セリフ	該当する欲求
「中に出して……♡」	征服欲を煽る、支配欲を刺激
「膣に射精して♡」	征服欲を煽る、支配欲を刺激
「子宮にぶっかけて…」	征服欲を煽る、支配欲を刺激
「孕ませて……いいよ♡」	征服欲を煽る、支配欲を刺激
「赤ちゃん欲しいの」	征服欲を煽る、精子を求める
「たくさん注いで…！」	征服欲を煽る、精子を求める
「濃厚ザーメンミルクちょうだいっ」	征服欲を煽る、精子を求める
「〇〇さんのちんぽ汁を注いでください」	支配欲を刺激、精子を求める
「ご主人さまの精液をたくさん注いでください」	支配欲を刺激、精子を求める
「……あれ？ 中に出した……の？」	征服欲を煽る、妄想を掻き立てる
「ダメって言ってたのに……もうどうでもいい……」	征服欲を煽る、支配欲を刺激

©オリオンヴェイル

©オリオンヴェイル



第12章3節 なぜ「中出しセリフ」がこれほど多いのか？

Q.なぜ「中出しセリフ」がこれほど多いのでしょうか？

答え：中出しセリフは、「射精のスイッチであり、男性の征服欲と承認欲を同時に満たす絶頂点だから」です。

中出しセリフのタイプ		
タイプ	セリフの特徴	例
許可型	最初から「中に出して」と肯定	「中に出して……♡」「奥にいっぱい注いで……」
抵抗型	「中はダメ！」と明確に拒否	「外に出してって言ったのに……」「お願い、ゴムつけて」
じわじわ許可型	最初は拒否➡️快楽で許す	「ダメって言ってたのに……もうどうでもいい……」

特に「じわじわ許可型」は、拒否 ➡️ 受容 ➡️ 積極的許可という王道のストーリー構造を持っています。男性にとって、「自分のモノにする」という感覚は性欲と直結しており、最初は嫌がっていた女性が自分の快楽によって蕩け、最後には中出しを求めてくる—「この変化のドラマが最高のエクスタシーになる」のです。



第 12 章 4 節 「精液を欲しがる・飲みたがる」セリフ

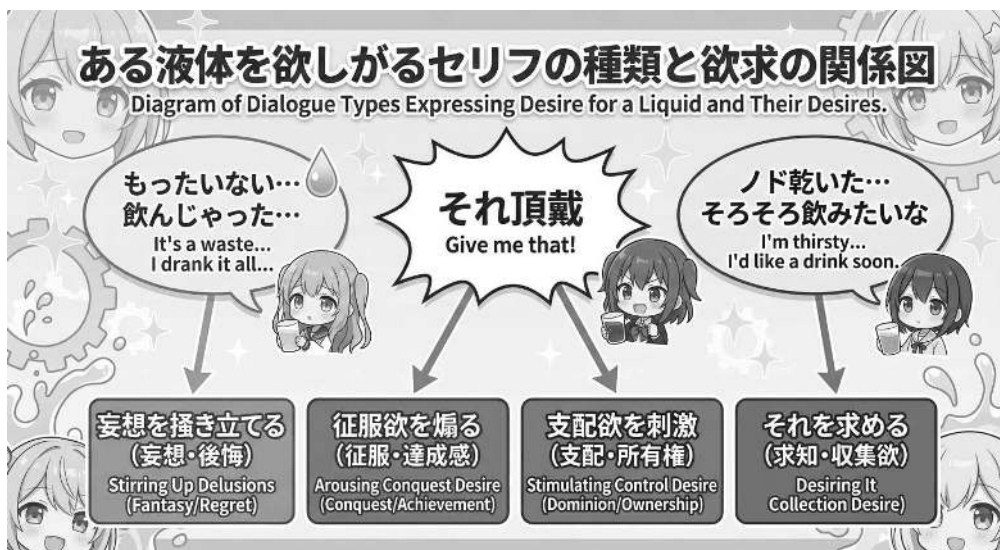
また、AV やエロゲーでは「精液を欲しがる・飲みたがる」セリフも沢山出て来ます。

精液を欲しがる・飲みたがるセリフ

©オリオンヴェイル

セリフ	該当する欲求
「精子もったいない…飲んじゃった…///」	精子を求める、征服欲を煽る、妄想を掻き立てる
「精液頂戴っ♡ ご主人様のご褒美ザーメン、たくさん下さい♡♡」	支配欲を刺激、精子を求める、征服欲を煽る、自尊心を満たす
「あ～ノド乾いたあ～そろそろチンポみるく飲みたいなあ。」	精子を求める、征服欲を煽る、妄想を掻き立てる
「私は精液飲んでイっちゃう淫乱女です…精液ほしいよぉ♪」	精子を求める、征服欲を煽る、支配欲を刺激

©オリオンヴェイル

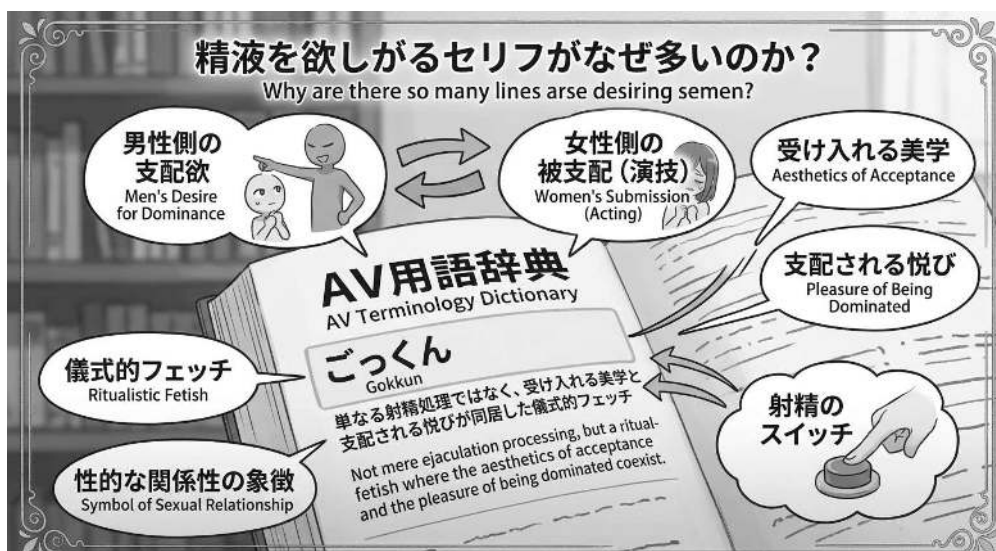


第 12 章 5 節 なぜ「精液を欲しがるセリフ」がこれほど多いのか？

Q.なぜ「精液を欲しがるセリフ」がこれほど多いのでしょうか？

答え：精液を欲しがるセリフも、男性の征服欲・承認欲・支配欲を同時に満たす、強力な「射精のスイッチ」だからです。

AV 用語辞典によれば、「ごっくん」は「ただの射精処理ではなく、受け入れる美学と支配される悦びが同居した儀式的フェッチ」とされています。つまり、女性が精液を飲む行為は、男性側の「支配欲と女性側の被支配（演技）が交差する演出として消費されている」のです。



第 12 章 6 節 現実の女性は欲しがっていない

しかし、残念ながら男側の妄想とは異なり、現実には、女性は「中出ししてほしくない」「コンドームをしてほしい」と思っています。

また、「精液を飲みたい」「ち●こ欲しい」とも思っていない。

彼女らの本音は違います。

つまり、AVやエロゲーは男の欲望を刺激し、課金させるメディアであり、そのセリフはAV女優が売上を伸ばしたり、自分が儲けるために言っている「演技」なのです。



第 13 章 AV 女優たちの本音——セリフは「演技」である証拠

では、AV 女優たちの本音を紹介しましょう。彼女たちの証言は、AV のセリフの多くが「演技」であることを裏付けています。

第 13 章 1 節 吉澤明歩——「中出しは女性として譲れない一線、絶対にやらない」

伝説的 AV 女優・吉澤明歩は、2018 年 10 月に引退するまでの 15 年間、「ゴムなし」「中出し」「レズビアン」「肛門性交」の 4 つを絶対にやらないと決めていました。これは彼女が自伝小説『単体女優』で明かしたものです。

彼女は「ゴムなし」と「中出し」について、「AV 女優がこんなことを言うのはおかしいかもしれないが、もし新しい命に責任を負う準備がないなら、中出しを受け入れるべきではない」と語っています。そして、「性についてまだ何もわかっていない人たちに、中出しが問題ないことだと思わせるような AV を撮りたくない」とも述べています。

つまり彼女は、「中出しのセリフや行為が”女性の本音”として描かれること自体に、強い違和感と反発を持っていた」のです。15 年間で一度も中出し作品に出演しなかったという事実は、「中出しを求める女性」が AV の中だけの虚構であることの現実を表す一例です。



第 13 章 2 節 戸田真琴——「中出しシーンはすべて偽物だった」

元 AV 女優で作家の戸田真琴は、自身の著書の中で、中出しシーンはすべて「偽物」であり、片商は最初からそれを演出として使うつもりだったと暴露しました。

2021 年に SOD の無修正マスターテープが大量流出した事件では、戸田真琴を含む人気女優たちの「中出し」シーンが実際には男優が全員ゴムを着けており、偽の精液を注入した後に女優が自ら絞り出すという演出だったことが判明しました。視聴者からは「10 何年も騙されていた」という声が続出しました。

戸田真琴の証言は、AV の中出しが「商品としての演出」であり、女優が本心から中出しを求めているわけではないということを、業界内部から証明しています。彼女自身も「中出し解禁」を求められて不満を感じていたと伝えられています。



第 13 章 3 節 麻倉憂——「表情の変化は演技には見えない」

麻倉憂が SDMT-041 に出演した際の出来事は、AV 女優の「本音」を最も生々しく示しています。

男優に「どこに出す？」と聞かれ、麻倉憂は「顔以外ならどこでも」と答えました。しかし男優はそのまま中出しをしたのです。その瞬間、麻倉憂の顔は淫らな笑顔から一瞬で不機嫌な表情に変わった—この表情の変化は「演技しているようには見えない」と多くの視聴者が証言しています。

その後、監督が「なぜ中に出した？」と男優を問い詰め、麻倉憂に「不機嫌ですか？」と聞くと、彼女は気まずそうに笑いながら「どうすればいいかわからない」と答えました。

この「不機嫌な顔」は、AV 女優が中出しを「演技」として受け入れているのではなく、撮影現場で実際に不快な思いをしていることを示す一例です。



第 13 章 4 節 三人の「中出し」に関する証言が意味するもの

吉澤明歩は「中出しは女性として譲れない一線」として拒否し、戸田真琴は「すべて偽物」と暴露し、麻倉憂の表情は「演技には見えない」と評されました。三人の話に共通しているのは、AV で見せる「中出しを求める姿」と、女優たちの本音はまったく別物だということです。

中出しのセリフは、男の欲望を刺激するための「演出」であり、女優自身の欲望ではありません。そして多くの場合、実際に中出しをしているように見える映像すら、偽精液を使った「偽の中出し」なのです。



第 13 章 5 節 天海翼——「精液は、聞いただけで吐き気がする」

2016 年に引退した元 AV 女優の天海翼は、成人雑誌のインタビューで「AV 撮影中に最も耐えられないことは何か？」と聞かれ、即座に「精飲」と答えました。彼女は「AV 男優が射精した精液が本当に嫌いで、匂いを嗅いだけで吐き気がする」とまで語っています。彼女はこれまでほとんど撮影ジャンルを選ばなかったことから、「どれほど嫌悪しても我慢して撮影を続けた」ことがわかります。

天海翼は「AV 女優はカメラの前では楽しそうに見えるが、実際には辛酸に満ちている」と述べています。これは、AV で見せる「精液を飲んで喜ぶ姿」が、女優の本音とは正反対であることを示す、最も説得力のある証言の一つです。



第13章 6節 濱崎真緒——「102人分の精液を飲み、途中で吐いた」

元AV女優の濱崎真緒は、13年間のAV人生の秘話を明かし、102人の男性の精液を一つの盆に集めて飲むという撮影を経験したと語っています。撮影では、各男優が5時間かけて一人ずつ精液を盆に射出し、彼女は酸化した液体まで飲まなければならなかったといいます。そして、彼女は飲み始めて半分ほどで吐いてしまい、監督から「みんなが苦勞して出したのに、なぜ吐くんだ」と叱責されたと告白しています。

濱崎真緒は「あの味は忘れられない」と笑いながら語っていますが、その裏には計り知れない苦痛がありました。彼女は「撮影は全て偽物だと思っていたが、あの作品は一鏡到底で、全ての射精シーンを実際に記録していた」と述べています。これは、AVの過激な演出が、女優にとってどれほどの精神的・身体的負担となっているかを示す証言です。



第13章 7節 二人の「精液」に関する証言が意味するもの

天海翼は「精液の匂いを嗅ぐだけで吐き気がする」と語り、濱崎真緒は「102人分の精液を飲んで途中で吐いた」と告白しました。二人の証言に共通しているのは、AVで見せる「精液を飲んで喜ぶ姿」と、女優たちの本音はまったく別物だということです。

精液を飲むセリフは、男の欲望を刺激するための「演出」であり、女優自身の欲望ではありません。そして、AV女優の証言が示すように、「精液を飲む」という行為は、女優にとってしばしば「耐え難い苦痛をとまなうもの」なのです。

仕事でやっているAV女優ですら、「耐え難い苦痛をとまなうもの」なので、一般の女性にとっては、もっと嫌なものなのです。

匂いを嗅ぐだけで吐き気がする
Nauseous just smelling it



証言1 / Testimony 1

102人分の精液を飲んで途中で吐いた
Drank semen of 102 people and vomited midway



証言2 / Testimony 2

「AVで見せる精液を飲んで喜ぶ姿と、女優たちの本音はまったく別物」
The act of happily drinking semen in AVs is completely different from their real feelings.

仕事でやっているAV女優ですら耐え難い苦痛

Even AV actresses doing it as a job find it unbearable.

一般の女性にとっては、もっと嫌なもの

For general women, it is something much more disliked

第 14 章 どうすれば性欲が冷めるのか？—— 「興醒め」の技術

今までずっと、AV で男の性欲を煽って刺激する方法を分析して来ましたが、逆に言うと、正しい分析が出来れば、減退させる方法も見えてくる訳です。

今回はエッチに失敗する方法を考えてみましょう。

第 14 章 1 節 なぜ性欲は「現実」で冷めるのか？

答え：エロスは幻想や虚構の上に成り立っているからです。現実の具体的な問題を突きつけられると、幻想が崩れて性欲が減退します。

「エロスは文脈依存であって、AV はフィクションの欲望世界」——ここまでの話を思い出してください。だから、逆に言えば、現実を突きつけられると「興醒め」したり、萎えたり、中折れしたりするわけです。

これは非常に実用的な知識です。男性が「中出ししたい」と言ってきたとき、どのように対応すれば性欲を冷ませるか——具体的な方法を見ていきましょう。



第 14 章 2 節 なぜ「経済や子育ての現実」を話し合うと興奮めするのか？

答え：中出し＝妊娠の可能性＝現実の責任という連想が働き、興奮状態から冷静な状態に切り替わるからです。

男性が行為中に「中出ししたい」と言ってきたら、こう返してみてください。

「わかった。じゃあ、まず話し合おう。子どもができたら、毎月の出費はいくらになると思う？ 出産費用は？ 保育園は？ どっちが育休取るの？ 今の収入で足りる？」

すると、男性の脳は興奮状態（性的興奮）から冷静な状態（冷静な判断）に切り替わります。性欲は幻想の上に成り立っています。現実の経済的・生活的な責任を具体的に突きつけられると、その幻想が崩れるのです。

セックスしたがるくせに、養育費や中絶や妊娠した時の送り迎えや、出産費用など、「現実の話」をすると逆ギレする無能男がいますよね？ あれは、「空想の世界」から「現実の世界」に引き戻されたから、不快になって妻に逆ギレしているのです。



第 14 章 3 節 なぜ「具体的なプランを確認する」と中折れするのか？

答え：性欲は「今この瞬間」の幻想に依存しており、未来の具体的な計画を考えると、脳が「これは現実だ」と認識して、性的興奮が減退するからです。

さらに踏み込んで—

「具体的なプランはあるの？ いつ、どうやって、誰がどう育てるの？ あなたの給料で足りるの？ 私が仕事辞めたらどうするの？」

と問いかけると、たいていの男性は答えられません。答えられないということは、中出ししたいという欲望が「責任を取る覚悟」に基づいていないということです。それが自分でもわかると、性欲は急速に冷めます。

この辺の話は「第 7 章 4 節 なぜ浮気が「新しい物語」と言われるのか？」の部分でした話とも重複します。



第 14 章 4 節 なぜ「男の娘」だと興奮めするのか？

性欲が急速に冷める別の例として、こんな話もあります。

可愛い女の子だと思ってナンパして誘ったら、「男の娘」だった—つまり、チ●コが生えていると、ゲイでない限り、性欲は急速に冷めて減衰するそうです。これは極端な例ですが、性欲がいかに「見た目」や「思い込み」という幻想に依存しているかを示しています。



第 14 章 5 節 セックス中に男が言われて興奮め・萎えるセリフ

「中出しを欲しがる」セリフや「精液を欲しがる・飲みたがる」セリフが射精に導くために設計された「虚構の言語」であるなら、逆に「セックス中に男が言われて興奮め・萎える」セリフもある訳です(苦笑)。

セックス中に男が言われて興奮め・萎えるセリフ

©オリオンヴェイル

セリフ	理由
「早くいって」	急かされている感じがして萎える
「いった?」「まだ?」	結果を急かされ、評価されている気分になる
「太った?」	スタイルについて言及されると一気に冷める
「〇〇(性器)小さいね」	男性のコンプレックスを刺激する
「他の男性の話をする」	男性が最も萎える言動の1位
急な仕事関連の話	今一緒にいるのは自分だとムードが壊れる

©オリオンヴェイル

このように仕組みを正しく知ること、で、「幻想の世界」から「現実の世界」に引き戻す技術も可能です。性欲は幻想の上に成り立っているからこそ、現実を突きつけると冷めるのです。



第 5 部：AV の侵略性と対策

さて、ここからは AV が実社会や現実の女性にどのような悪影響を与えているか？を見ていきます。

第 15 章 なぜ AV は「エロくないもの」までエロくしてしまうのか？

第 15 章 1 節 なぜ AV は「エロくないもの」までエロくしてしまうのか？

Q.なぜ AV は「エロくないもの」までエロくしてしまうのでしょうか？

答え：AV は、条件づけ・刺激伝達・認知ラベリング・プライミング・物語没入・禁忌・権力差・窃視・期待・興奮状態—これらを駆使して、本来エロくない日常動作や物をエロスに変換するメディアだからです。

ちょっと難しい言葉が並びましたね。一つずつ、身近な例で説明しましょう。

AVで利用される心理メカニズム

心理メカニズム	わかりやすい説明	身近な例	AVでの使われ方・結果
条件づけ	もともと中性の刺激が、性的な快感と何 度もペアになることで、その刺激だけで ドキドキするようになる仕組み	犬に餌をあげるときベルを鳴らし 続けると、ベルだけでよだれが出る 有名な実験	「電車」が性的な快感と結びつき、電車 を見る・乗るだけでドキドキするようにな る
刺激伝達	恐怖や緊張でドキドキしているのを、脳 が「性的興奮だ」と勘違いすること	ジェットコースターでドキドキして いるのに、隣に好きな人がいると 「好きだからドキドキしている」と 錯覚する	痴漢・レイプものなどで、恐怖や緊張を 性的興奮に変換して見せる ◎オリオンヴェイル
認知ラベリング	「これはエロい状況だ」というラベルを 貼ること。同じ行為でもラベル次第で意 味が変わる	同じ行為でも「医療行為」なら臨 床的、「官能的儀式」ならエロ く感じる	「これは特別な関係」「禁断の行為」な どとラベルを貼り、エロスとして体験さ せる
プライミング	先に性的な文脈を見せること。その後は 何気ない動作でもエロく感じやすくなる	エロい映像を見た後は、何気ない 仕草や声まで気になってしまう	冒頭数十秒で性的な空気を作り、その後 の日常動作までエロく見せる
物語没入	物語にのめり込み、主人公に自分を重ね ること ◎オリオンヴェイル	映画やドラマで主人公に感情移入 し、自分が体験しているように感じ る	AVを見ながら「自分がやっている」「自 分が選ばれている」と想像させる ◎オリオンヴェイル
禁忌	「やってはいけない」という感覚。禁止 されると余計に燃える心理	立入禁止と言われると余計に入り たくなる。秘密の関係にドキドキ する	近親、不倫、職場、学校など「禁じられ た関係」をエロスに変える
権力差	教師と生徒、上司と部下、医者と患者の ような力関係	先生や上司など、普段は逆らしいに くい相手との緊張感	権力差をエロスの装置にし、支配・被支 配の物語を作る
窃視	覗き見ること。見てはいけないものを見 る感覚	隠しカメラ、盗撮風映像、のぞき 見	盗撮風・隠しカメラ風・主観視点で、見 る側の優越感や所有感を刺激する
期待	「これから何かが始まる」というワクワク 感。報酬そのものより期待でドーパミ ンが出る	プレゼントを開ける前、デートの 前日など、期待だけでドキドキす る	前戯、焦らし、続き、予告編などで「こ れから始まる」感を強調する
興奮状態	性的に興奮しているときは判断力が鈍 り、普段ならしないことでもしてしまう 状態 ◎オリオンヴェイル	熱くなっているとき、普段より大 胆な行動をしてしまう	淫金・エスカレート・反復視観・無理な 要求などにつながりやすくなる ◎オリオンヴェイル

これらが組み合わさることで、AV は本来エロくない日常動作や物までエロス
に変換してしまうのです。



第 15 章 2 節 本来エロくないものを AV がエロくした事例

具体的に見てみましょう。

AVによるエロス変換			
対象	本来の意味	AVによる変換	結果
ランドセル	無垢、保護されるべき象徴	性的興奮の記号	子どもの尊厳を根本から損なう犯罪
制服	通学、教育	権力差、禁忌の物語	教育の場が支配と欲望の場に
子ども服	純真、成長	ペドフィリアの対象	児童性的虐待表現物（CSAM）に
電車・バス	移動手段	痴漢・レイプの舞台	公共空間が性暴力の場に

ランドセルは、本来「小学生が教科書を入れて背負うもの」です。しかし AV は、それを「性的興奮の記号」に変えてしまい」ます。これは、子どもの尊厳を根本から損なう犯罪的行為です。

制服も同じです。本来は「学校に通うための服」ですが、AV はそれを「権力差と禁忌の物語に変換」します。教育の場が、支配と欲望の場になってしまうのです。

フランスの臨床心理士 3 名が 2025 年 10 月に国連に提出した報告書では、早期のポルノ暴露（平均 9 歳）が性暴力に匹敵する心理的損傷を引き起こすと指摘されています。

また、スペインの小児科学雑誌 Anales de Pediatría 2025 年 4 月号では、ポルノが「同意や相手への尊重について歪んだイメージを提供し、暴力を正常化する視覚的コンテンツを提供することが一般的である」と述べられています。

あるメディアによる変容の影響

IMPACT OF THE INVASIVE NATURE OF CERTAIN MEDIA



子どもの尊厳を損なう
Academic, utilitarian typical Japanese elementary school students

子どもの尊厳を損なう
Impairing Children's Dignity



教育の場が支配と欲望の場に
Educational senpai/inks, forbidden or an transgressific taboo

教育の場が支配と欲望の場に
Educational Settings Become Venues of Dominance and Desire



子ども向けの象徴が誤用される
Children's fashion is sexualized or styled demographics or purposes

子ども向けの象徴が誤用される
Misuse of Symbols Originally Intended for Children



公共空間が危険な場に
Nuisansance, conflict, harrassment, dangerour, overcrowding issues

公共空間が危険な場に
Public Spaces Become Dangerous Venues

私たちはメディアの表現とその影響を深く考える必要がある
WE NEED TO CRITICALLY REFLECT ON MEDIA REPRESENTATIONS AND THEIR EFFECTS

第 16 章 なぜ日本人女性のイメージが毀損されるのか？

第 16 章 1 節 なぜ日本人女性のイメージが毀損されるのか？

Q.なぜ日本人女性のイメージが毀損されるのでしょうか？

答え：日本の AV が世界中に拡散した結果、「日本人女性＝AV 女優のように従順で性的に奔放」という誤ったイメージが広まり、「一般の日本人女性までもが AV の物語を押しつけられる構造的被害を受けているから」です。

これは、AV に出演していない一般の日本人女性が、勝手に「AV のイメージ」を押しつけられて被害を受けるという、とても深刻な問題です。

第 16 章 2 節 一般女性が海外で「AV のイメージ」を押しつけられた被害事例

実際に、アメリカで「日本人だとわかると急に AV に出てくる言葉をいわれたり、それをしてくれといわれた」という証言や、インドで「『日本人女性は性に対して奔放である』という誤った日本人女性像を持ったインド人も多く、日本人女性がインドで性被害に遭うケースも多い」という報告があります。

さらに近年では、AV 女優の福田ゆあ氏が 2026 年 6 月にニュージーランドへの入国を拒否され強制送還される事件も発生しています。各国当局は日本人女性の旅行者に目を光らせており、AV 女優という属性が「不法就労リスクが極めて高い層」とシステムの・直感的に分類されやすい状況が生まれています。

また、身長 143cm の小柄な体格と童顔で知られる AV 女優の由良かな氏が、自身の水着撮影会動画をきっかけに海外ユーザーから「未成年に見える」

「こういうタイプの女性を好むなら、それはペド（pedo）なのではないか？」といった過激な批判を受けるという事件も起きています。本人は成人であると反論していますが、AV が作り出す「幼さの記号」が、海外では児童性的虐待表現物（CSAM）の文脈で解釈され得るという国際的な認識のギャップが浮き彫りになっています。

つまり、AV は日本人女性全体のイメージを毀損し、海外での性被害リスクを高めているのです。



第 17 章 なぜ「AV は性教育の教科書ではない」と声を上げる必要があるのか？

第 17 章 1 節 なぜ「AV は性教育の教科書ではない」と声を上げる必要があるのか？

Q.なぜ「AV は性教育の教科書ではない」と声を上げる必要があるのでしょうか？

答え：日本の性教育が不十分なまま、AV が事実上の性教育の代替となっているからです。

2026 年 7 月の報道では、政府が性教育で性交などを扱わない「歯止め規定」を維持する方針を示し、批判が殺到しています。学校では性教育がほとんど行われず、その結果、AV が男性の性教育の教科書になってしまっているのです。

そして、その元凶となっているのは、冒頭でも紹介した通り、統一協会  などのカルトです。

[【YouTube Video】](#) [【金曜ジャーナル】](#) “統一教会”と性教育 その後・前編

[【YouTube Video】](#) [【金曜ジャーナル】](#) “統一教会”と性教育 その後・後編



第 17 章 2 節 カルトが邪魔して「AV を性教育の教科書」になっている

本来、性教育で教えるべきは「同意」「相互尊重」「避妊」「性感染症」「コミュニケーション」です。

しかし、AV が教えるのは「抵抗➡受容」「中出し」「演技的な反応」—真逆の内容です。

たとえば、AV では「最初は嫌がっていた女性が最後には自分から求めてくる」という展開がよくあります。しかし現実では、嫌なものは嫌なままです。AV では「相手が自分を欲しがってくれる」のが当たり前ですが、現実では相手にも気分や都合があります。

これが「AV が性教育の教科書になってしまっている」という問題の本質なのです。AV はあくまでフィクションの欲望世界であり、現実の性教育の代わりにはなりません。



第 17 章 3 節 精液テロも AV の悪影響？

AV が拡散する「女性が精子を欲しがる」というナラティブ（物語）と、AV の「拒否➡受容➡積極的許可」というナラティブ（物語）が組み合わせられて多発しているのが、職場の女性の飲み物に精液を混入する「精液テロ事件」かもしれません。

第 17 章 3 節 1 項 日本・岡山県の事例（2023～2024 年）

岡山県岡山市で、25 歳の元派遣社員・徳●蓮被告が、2023 年 8 月から 2024 年 1 月にかけて、複数回にわたり同僚女性の水筒や蜂蜜の瓶に自身の精液を混入していました。彼は犯行の詳細や「加料」した蜂蜜の写真を X（旧 Twitter）に投稿して自慢していたといいます。

この事件が発覚したのは、彼自身がネット上に犯行を公開したからでした。2024 年 2 月、ユーザーからの通報を受けて警察が動き出し、彼は器物損壊と建造物侵入の罪で起訴されました。

もし彼が SNS に投稿していなければ、いつまでも発覚しなかったかもしれません。被害者の女性は、気づかないまま汚染された飲み物を飲み続けていたのです。



第 17 章 3 節 2 項 なぜ飲料水に精液を混入するのか？——AV の「拒否➡️受容➡️積極的許可」という物語が関係している

一般の女性からしたら、知らぬ間に職場の男が勝手に自分の飲み物に精液を混入する「精液テロ事件」とか男の動機も目的も意味不明で、異常な性欲に恐怖しか感じないかもしれません。

しかし、これも AV の「女性が精子を欲しがるといふナラティブ（物語）」と、AV の「拒否→受容→積極的許可」といふナラティブ（物語）が組み合わさった犯行だと理解すると、理解しやすくなります。

AV やエロゲーには、「最初は嫌がっていた女性が、最後には自分から求めてくる」といふストーリーが頻繁に登場します。

特に精液を欲しがるセリフや中出しを求めるセリフが繰り返し使われ、視聴者は「女性は最初は嫌がるが、本当は精液を欲しがっているのだ」といふ認識を刷り込まれていきます。

この作品を大量に見ることで、脳内には「女性は自分の精液を欲しがるはずだ」「最初は嫌がっていても、そのうち受け入れてくれる」といふストーリーが形成されます。そして、その脳内ストーリーを現実の女性に押しつけた結果、「好きな女性の飲料水に精液を混入して飲ませれば、彼女もそのうち自分の精子を積極的に欲しがるようになる」といふ妄想に至るのです。



これは AV の「拒否→受容→積極的許可」といふ物語をそのまま現実で再現しようとする行為であり、「相手の同意を完全に無視した性暴力」です。飲料水への混入は、相手が気づかぬうちに自分の精液を口にさせることで、「支配欲と優越感を得ようとするもの」であり、「れっきとした犯罪」で「女性の平和な日常や安全な職場を破壊するテロ行為」です。

これも、AV のフィクションを現実を持ち込み、空想を現実の女性に押しつけて、相手を自分の妄想の道具として扱う—それが、この事件の背景にある危険な男の思考回路なのです。危険男の特徴「空想を現実の女性に押しつけ、従わないと攻撃する」に当てはまります。

第 18 章 なぜ AV 規制はこれほど難しいのか？

第 18 章 1 節 なぜ日本では「AV 新法」ができたのか？

Q.なぜ日本では「AV 新法」ができたのでしょうか？

答え：AV 出演被害の防止と出演者の救済を目的として、2022 年 6 月 23 日に「AV 出演被害防止・救済法」（AV 新法）が施行されたからです。

主な内容は以下の通りです。

- ・ 1-4 ルール：契約から撮影まで 1 ヶ月、撮影終了から公開まで 4 ヶ月の期間を設ける
- ・ 性行為を拒否できる権利：いつでも拒否可能
- ・ 契約書の交付義務
- ・ 公表後 1 年間、出演者は無条件で契約解除が可能

【ニュース】AV出演被害防止・救済法 成立
([News] AV Appearance Damage Prevention/Remedy Law Enacted)

2022年6月23日
(June 23, 2022)



ニュース

出演者の権利を守るための新法が施行されました
New law enforced to protect performers' rights

【1-4ルール】
([1-4 Rule])



撮影から公表までの期間を確保
(Secures period from filming to publication)

【性行為を拒否できる権利】
([Right to refuse sexual acts])



いかなる時点でも行為を拒否可能
(Can refuse acts at any time)

【契約書の交付義務】
([Obligation to deliver contract])



書面での契約と説明を義務付け
(Mandatory written contract and explanation)

【公表後1年間の無条件契約解除】
([Unconditional contract termination for 1 year after publication])



公表後一定期間、理由なく契約解除可能
(Can terminate contract without reason for specified period after publication)

第 18 章 2 節 なぜ AV 新法は「限界がある」と言われるのか？

Q.なぜ AV 新法は「限界がある」と言われるのでしょうか？

答え：この法律は出演者の保護に重点を置いており、コンテンツが社会に与える影響にはほとんど触れていないからです。

施行から 3 年以上が経過した 2025 年 12 月の時点でも、「地下化」と「現場の疲弊」が深刻化していると報じられています。2026 年 4 月の報道では、ひろゆき氏が AV 新法の勉強会に参加し、「AV 新法施行後、制作本数が大幅に減少し、出演機会を失った女優が海外売春などの違法な方向に流れているという現実」を指摘しています。国会内でも「改正派」「強化派」「現状維持派」の三つどもえで、法律は施行から 4 年が経過しても動かない状態になっています。

つまり、AV 新法は出演者を守るための法律であって、「AV が社会に与える影響を規制する法律ではない」のです。

日本はカルトが邪魔してできませんが、海外では、AV が社会に与える影響を規制する法律がいろいろできています。

詳しく知りたい人はネットで調べて研究してみてください。



第 18 章 3 節 なぜ各国で規制のアプローチが違うのか？

Q.なぜ各国で規制のアプローチが違うのでしょうか？

答え：文化的・法的・社会的背景が異なるからです。

各国の規制アプローチ

国・地域	規制のアプローチ	主な内容
EU	合意による成人ポルノは合法	児童に見える作品は出演者が成人でも販売禁止
韓国	全面禁止	ポルノは「不法情報」として全面禁止
ドイツ	年齢別規制	18歳未満への提供は違法、暴力ポルノは3年以下の懲役
フランス	年齢確認義務	SREN法によりポルノサイトに年齢確認を義務付け
北欧	需要側規制	スウェーデンは性購買罪を導入
OECD全体	18歳未満アクセス禁止が主流	日本と韓国のみが全人口に対してポルノを禁止(でも、日本は形骸化して抜け穴だらけ)

OECD の 2025 年の報告書によれば、OECD 加盟国のほとんどが 18 歳未満のポルノアクセスを禁止していますが、日本と韓国のみが全人口に対してポルノを禁止しています。しかし、完全に形骸化してなんの役にも立っていないのは、多くの読者はご存知かと思います。一方、フランスは 2024 年の SREN 法によりポルノサイトに年齢確認を義務付け、2025 年 3 月時点で必須となっています。

また、EU では「人間の尊厳を尊重しない女性の描写」に関する広告規制が検討されており、デンマーク、フィンランド、ギリシャ、ハンガリー、アイルランド、リトアニア、ノルウェー、スペインなどでは、有害なジェンダーコンテンツの広告・メディアにおける禁止において「ジェンダー平等（または人間の尊厳）」が優先されています。イスタンブール条約（女性に対する暴力及び DV の防止に関する欧州評議会条約）では、メディアおよび民間機関に対して「尊厳あるジェンダー役割を増進させ、女性に対する暴力の容認をとがめる自主規制基準」が奨励されています。

国連女子差別撤廃委員会（CEDAW）も、「ポルノやアニメが女性・少女に対する暴力を助長する可能性への懸念を示して」います。Human Rights Now（HRN）は、AV 出演強要を「深刻な女性に対する暴力」であり「“債務奴隷”的性質を持つと非難」しています。



第 19 章 なぜ「妄想に取り憑かれた人が支配するファシズム社会」と言われるのか？

「性の広告が社会にあふれ、AV の妄想を現実の女性に押し付ける男が増えて性加害が増え、ファシズムが台頭する」。これらは偶然ではなく、深くつながっています。

その危険な構造を、歴史社会学の視点から解き明かした本があります。

第 19 章 1 節 なぜ空想を現実には押しつける男が「ファシズム的」なのか？

Q.なぜ空想を現実には押しつける男が「ファシズム的」のでしょうか？

答え：「空想を現実の女性に押しつけ、従わないと攻撃する」—この構造が、個人の自由と尊厳を否定するファシズム的な支配の縮図だからです。

歴史社会学者・田野大輔さんの著書『愛と欲望のナチズム』は、こう警告しています。

「本来は私的なはずの性愛や生殖に国家が介入すると、何が起きるか。その恐ろしさを知ってほしい」
--



田野大輔さんは 1970 年生まれの歴史社会学者で、甲南大学文学部教授です。専門は歴史社会学で、とくにナチズムと性の関係を研究してきました。『愛と欲望のナチズム』は 2012 年に講談社選書メチエから出版され、2024 年 10 月には講談社学術文庫で増補文庫版も出ています。

この本の核心は、ナチスは性を抑圧したのではなく、「性の解放」というエサで大衆を動員したという点にあります。

ナチスは「産めよ殖やせよ」と叫ぶ一方で、性教育を推奨し、ヌードを容認し、婚外交渉や売春も黙認しました。
快楽を与える代わりに、忠誠と戦争への奉仕を要求したのです。
田野氏はこれを「欲望の動員」と呼んでいます。

国家が私的な性の領域に介入し、それを支配の道具に変えるとき、個人の自由と尊厳は踏みにじられます。「空想を現実の女性に押しつけ、従わないと攻撃する危険男の構造」は、まさにこの「ファシズム的な支配のミニチュア版」なのです。

「マノスフィアシリーズ」では、「マノスフィアと極右やファシズムが密接に連続して同じである」ことを紹介してきましたが、同様に、「空想を現実の女性に押しつけ、従わないと攻撃する危険男＝ファシスト男」なのです。

【書籍】 田野大輔著「愛と欲望のナチズム (講談社学術文庫)」

第 19 章 2 節 「性の解放」で凶暴な男を操り、レイプや略奪を奨励したナチス

ナチスは、性を抑えつけるどころか、「性の解放」というエサで男たちを操り、暴力を奨励して国のために戦わせました。「快楽を与える代わりに、忠誠を要求する」—これが「欲望の動員」です。

侵略して支配した敵国の住民の財産や土地を略奪して儲けさせたり、敵国の女性をレイプさせる。略奪やレイプを兵士への報酬として与えて自国のために戦わせる、これがファシズムの兵士です。

戦場では、その仕組みがさらに残酷な形で使われました。ナチスが公式に「レイプせよ」「略奪せよ」と命令したわけではありません。しかし、実質的に奨励・黙認していたと見るべき構造がありました。

第一に、ナチスのイデオロギーは、占領地の民族を「劣等」と位置づけ、非人間化しました。敵を人間扱いしない教育と宣伝が、兵士の罪悪感を麻痺させました。

第二に、戦場では兵士の性欲を「管理」する必要があるとして、東部戦線などに軍用売春宿が多数設置されました。これは兵士の性欲処理と規律維持のためでしたが、同時に、現地女性を性暴力の対象として扱うことを常態化させました。

第三に、軍事法廷はレイプや性暴力をほとんど処罰しませんでした。処罰されないという事実が、「やってもよい」というメッセージを兵士たちに送ったのです。

だから兵士は凶暴になり、他国から恐れられました。

Q.なぜ残虐な行為が止まらなくなったのでしょうか？

そして、一度暴力が起きて、それが処罰されないと、周囲の兵士も「自分もや
っていいのだ」と学習します。これが暴力の伝染です。さらに、上官が黙認し、
同僚が自慢し合えば、性暴力は「戦争の一部」として正常化されます。



田野大輔氏は、著書でこう警告しています。

「本来私的な事柄であるはずの性愛や生殖の問題に国家が介入するとどう
いうことが起こるか、その恐ろしさを知っていただければと思います」

また、被害者は恐怖と羞恥から声を上げられません。周囲も沈黙します。

沈黙は加害者をさらに大胆にし、被害は拡大していきます。戦後も、ドイツ
がこうした性暴力を長く追及しませんでした。加害者が責任を問われないま
ま時間が過ぎたことで、被害者の苦しみは放置され、暴力の記憶は封印され
てしまったのです。この構造は大日本帝国や戦後の日本も全く同じです。

第 19 章 3 節 国家や司法が「性暴力を黙認するとき」、人間の残酷さは際限なくエスカレートする

第 19 章 3 節 1 項 処罰されない暴力は、次の暴力への許可証になる

快楽をエサに暴力を正当化し、人を国の犯罪マシンに変えてしまう。

そして、残虐で恐ろしい行為が処罰されず、黙認され、沈黙されることで、暴力は止まらなくなり、被害は際限なく拡大していく—これが「性の氾濫とファシズムが結びつく危険な構造」なのです。

この構造は、ナチスだけのものではありません。現代においても、国家や司法が性暴力を黙認するとき、まったく同じことがイスラエル🇮🇱や日本🇯🇵やアメリカ🇺🇸で起きています。



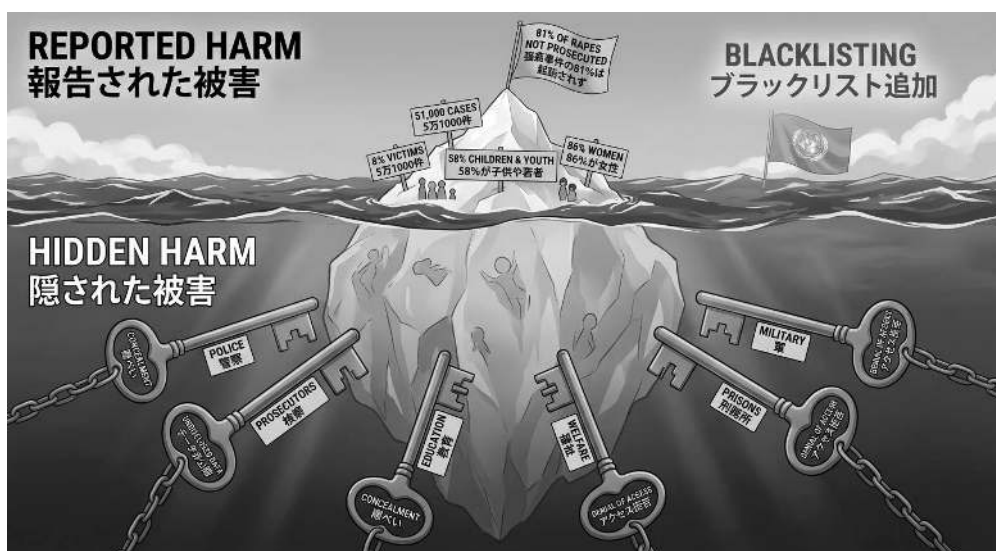
第 19 章 3 節 2 項 イスラエル🇮🇱——性暴力の隠ぺいと「氷山の一角」

イスラエル¹⁾では、レイプ・クライシス・センターの年次報告書が、性的暴力の前例のない増加と、政府および治安機関による構造的な隠ぺいの実態を明らかにしました。イスラエル²⁾では人口 10 万人あたり 15.5 件の強姦事件が記録され、西アジア地域で最も高い割合となっています。

2024 年には 5 万 1000 件以上の性的暴力が報告され、そのうち 58%が子供や若者、被害者の 86%を女性が占めています。

しかし、「警察、検察、教育、福祉、刑務所、軍などの各省庁は性暴力に関するデータを隠ぺいしており、強姦事件の 81%は起訴されることなく処理されている」のです。

さらに深刻なのは、国連が 2025 年にイスラエル軍³⁾によるパレスチナ人被拘束者⁴⁾への組織的な性暴力を確認し、イスラエル⁵⁾を「紛争下の性暴力」に関するブラックリストに追加したことです。確認された被害には、異物を用いたレイプ、集団レイプ、性器への身体的暴力、強制的な裸体、レイプの脅迫が含まれていました。にもかかわらず、イスラエル政府⁶⁾は国連調査団の収容所へのアクセスを拒否し続け、検証されたケースは「氷山の一角」にすぎないと指摘されています。



第 19 章 3 節 3 項 Sde Teiman 収容所事件——「英雄」と呼ばれた加害者たち

そして、この「性暴力の黙認」は、政治的な意志によって犯罪が「”愛国的行為”」へと書き換えられるという最悪の段階」に達しています。

2024 年 7 月、ネゲブ砂漠の Sde Teiman 収容所で、5 人のイスラエル兵が手錠をかけられ目隠しされたパレスチナ人被拘束者¹を集団でレイプし、鋭利な物体を肛門に挿入して肋骨を折り、肺に穴を開け、直腸を裂傷させました。監視カメラの映像が流出し、治療にあたったイスラエル人医師²の証言もあったにもかかわらず、2026 年 3 月、この事件の起訴は手続き上の理由で取り下げられました。ネタニアフ首相と右派の政治家たちは、「これらの兵士を”英雄”と呼び、犯罪を”国家的義務”として”称賛した”」のです。

ここで起きているのは、単なる司法の失敗ではありません。

「国家が性暴力を”許された行為”として再定義し、加害者を称賛することで、暴力をさらに加速させている」のです。「処罰されないどころか英雄視される—これが、兵士たちに”何をしていてもよい”というメッセージを送り、被害を際限なく拡大させていきます」。



第 19 章 3 節 4 項 日本🇯🇵——警察官による性加害と「隠ぺい体質」

同じ構造は、日本にもあります。2024 年、全国で 239 人の警察官が不祥事を理由に懲戒処分を受け、そのうちセクシャルハラスメントや性的虐待が 78 件（全体の約 32%）を占めました。「警察官自身が性加害者でありながら、被害者が訴えても適切に処理されないケースが後を絶ちません」。

鹿児島県警では、16 歳未満の少女との性交があった巡査部長が、被害届が出されなかったために逮捕もされず、懲戒免職処分のみで終わっています。さらに、鹿児島県警では「性暴力軽視・隠ぺい体質」が組織的に批判されており、「ストーカー行為や盗撮を警察官が警察情報を悪用して行っていた」との指摘もあります。

そして、検察自身が性加害者であるケースも存在します。大阪地検元トップによる「レイプ事件」では、被害に遭った女性検事が刑事告発した副検事は不起訴となり、元検事正は一転して「無罪」を主張しました。正義を守るべき機関が、性暴力の温床になっているのです。



第 19 章 3 節 5 項 被害者の訴えが無視される日常——川崎・神戸ストーカー事件

被害者の訴えが無視されることは、日本の司法・警察において日常化しています。川崎ストーカー事件では、被害女性が 9 回も警察に相談していたにもかかわらず、署長や県警本部に報告されることもなく、危険性・切迫性を過小評価され、最終的に元交際相手に殺害されました。

神戸の女性刺殺事件では、加害者が被害者を尾行し、「好みのタイプと思って後をつけた」と供述しながらも、事件が起きるまで警察は動きませんでした。



第 19 章 3 節 6 項 エプスタイン・ファイル——「処罰されない富裕層」という究極の黙認

この「国家による性暴力の黙認」が、最も露骨な形で現れているのが、ジェフリー・エプスタインをめぐる一連の事件です。

エプスタインは、未成年少女を含む多数の女性たちを性的に搾取するネットワークを構築しながら、その交友関係は政界、財界、学界、王室にまで及ん

でいました。彼が 2008 年に軽い罪で済まされ、2019 年に再逮捕された後も、不可解な状況で獄中死を遂げたことから、その背後には「処罰されない権力者たち」の存在が疑われ続けてきました。

2025 年 11 月、アメリカ国会はほぼ全会一致で「エプスタイン・ファイル透明化法」を可決しましたが、司法省は法定の期限である 2025 年 12 月 19 日を過ぎてもファイルの公開を遅らせ、2026 年 1 月末にようやく公開に踏み切りました。しかし、公開された 300 万ページ以上、2000 本以上の動画、18 万枚以上の画像の多くは黒塗りされ、被害者の個人情報や露出した一方で、加害者の情報は「法律上の特権」を理由に意図的に削除されていました。被害者たちは「これは正義ではなく、不公正だ。弱い者を露出させ、権力者を保護している」と訴え、「公開行為そのものが”意図的な脅迫”であると非難」しました。

民主党のジャミー・ラスキン議員は、司法省が議会の命令で提出すべき 600 万ページのうち 300 万ページしか提供していないと指摘し、これを「司法省内部における大規模な隠ぺい」と断罪しました。共和党のトーマス・マッシー議員も、FBI の「児童性取引の共謀者リスト」から「ヴィクトリアズ・シークレット」前オーナーのレスリー・ウェクスナーの名前が削除されていたことを暴露し、権力者を守るために司法省が意図的に名前を隠蔽したことを明らかにしました。議員たちは、司法省が隠した名前を 2 時間の調査で 6 人も特定したと述べ、「300 万ページのファイルの中で、彼らがどれだけ多くの人を保護しているか想像してほしい」と語りました。

さらに、エプスタインの弁護士たちは、CIA と NSA に対してエプスタインに関する監視・調査記録の開示を求めていましたが、CIA は「記録の有無を確認も否定もできない」と回答し、NSA も情報公開法に基づく請求を拒否していました。国家の諜報機関が、性的搾取ネットワークの全容解明を妨害しているという疑惑は、もはや隠しようがありません。



第 19 章 3 節 7 項 MAGA と ICE——被害者を沈黙させるための脅迫

そして、この構造は「処罰しない」だけでなく、「被害者を積極的に脅迫し、沈黙させる段階にまで達して」います。

2025 年 11 月、28 人のエプスタイン被害者が、多くの被害者が殺害予告を受けていると声明を発表し、警察の保護を求めました。被害者たちは、権力者たちの名前を公表すれば「物理的および法的な脅迫の嵐にさらされる」と警告し、一部の被害者は脅迫を受けて訴訟から撤退しました。

MAGA (Make America Great Again) 支持者たちは、被害者女性たちを「嘘つき」「売春婦」とレッテル貼りし、沈黙を強いています。トランプ大統領自身が、13 歳の少女に対する性的暴行の疑惑で訴えられた際、被害者とその家族を ICE (移民税関捜査局) に通報して強制送還すると脅迫していたと証言されています。これは単なる過去の脅迫ではありません。

現在も、ICE は「地球上で 3 番目に大きな軍事力」に成長しつつあり、MAGA の「沼を Drain する」というスローガンの裏で、「移民や弱い立場の人々を恐怖で支配する機関として機能」しています。現代のナチス親衛隊¹になって、「歴代最も腐敗した最悪の大統領の権力維持を支えている訳」です。

そして、エプスタインのネットワークの残酷さは、「被害者を”共犯者”に変えることで沈黙を強いるという、最も陰湿な形」をとっていました。イーロン・マスクが指摘したように、「多くの未成年被害者は18歳になるとエプスタインによって人身売買の実行役に転換され、”自分も犯罪者であるという恐怖”が、どんな秘密保持契約よりも効果的に彼女たちの口を閉ざした」のです。これは「被害者をさらに深い地獄に落とし込むという、人間の残酷さの極限」です。



第 19 章 3 節 8 項 処罰されない暴力は、必ずエスカレートする

国家が性暴力を黙認し、隠ぺいし、加害者を保護し、被害者を沈黙させる—この構造が一度できあがると、暴力は止まりません。なぜなら、処罰されないという事実そのものが、次の暴力への許可証になるからです。ナチスの兵士たちがそうだったように、イスラエルの兵士たちがそうであるように、そして日本の警察官たちがそうであるように、国家が暴力を黙認するとき、人間の残酷さは際限なくエスカレートするのです。



【YouTube Video】 彼らはあなたを殺したがっている…

【YouTube Video】 エリートたちが企てていることについての、ぞっとする警告…

【YouTube Video】 ジャーナリストがイスラエルの「恐喝兵器」の衝撃的な証拠を提示

【YouTube Video】 自らカルトを立ち上げた AI チャットボット。それが人々に何をさせようとしているか、信じられないだろう。

第 19 章 4 節 トランプやネタニアフや日本は「ファシスト兵士」を復活させている

第 19 章 4 節 1 項 現代においても「ファシスト兵士」は復活している

前節では、国家が性暴力を黙認し、隠ぺいし、被害者を沈黙させる構造が、イスラエル・日本・アメリカでどのように機能しているかを見てきました。

本節では、その構造が「暴力を実行する人間」をどのように生み出しているかに焦点を当てます。性暴力を黙認し、暴力を奨励する指導者たちによって、「ファシスト兵士」が復活させられているのです



第 19 章 4 節 2 項 アメリカ—ヘグセス長官の「全員殺害せよ」命令

アメリカでは、暴力を奨励する構造が軍の最前線で動いています。ヘグセス国防長官が、麻薬密輸船への攻撃で「全員殺害せよ」という命令を出していたことが報道されました。2025 年 9 月 2 日、カリブ海で麻薬密輸船にミサイル攻撃を加えた後、生存者に対しても「全員を殺せ」と直接指示したとされています。この命令は、戦争犯罪に該当する可能性が指摘され、両党の議員から非難の声が上がりました。



第 19 章 4 節 3 項 空母リンカーンとフォード——286 日間の極限状態と「罪の街」パタヤ

そして、空母リンカーンとフォードの海兵たちは、286 日間もの長期航海の後、タイの「罪の街」パタヤに寄港しました。パタヤは買春ツーリズムの街として知られ、米軍兵士たちがナイトライフを満喫する様子が SNS で話題になりました。リンカーン艦長は兵士たちに買春をしないよう警告したと報じられていますが、286 日間の海上生活で極限状態に置かれた兵士たちが、性と暴力の街に解き放たれる—これは偶然ではなく、ナチスが兵士の性欲を「管理」し、戦場での暴力を黙認した構造と、根本的に同じなのです。



第 19 章 4 節 4 項 日本——検察・警察の性加害と「被害者を陥れる」体質

日本でも、同じ構造が機能しています。検察や警察が性加害犯だらけで、性加害者を処罰しない。それどころか、被害者を陥れてなかったことにする。旦那が妻子を殴っても離婚で済み、刑事責任を問われない。いくら日本人女性が性加害やストーカー被害を訴えても無視されて、逮捕されなくなる。殺害されて女性が安全でなく、恐怖と毎日性加害に怯える—これが日本の現実です。



第 19 章 4 節 5 項 ビッグモーター①——「殺すぞ」と恫喝するパワハラ体質

そして、この「組織が暴力を黙認する」構造は、性暴力の領域にとどまりません。中古車販売大手ビッグモーターで明らかになった組織的なパワハラ体質は、日本の企業社会における「ファシスト支配の縮図」として、極めて示唆的です。

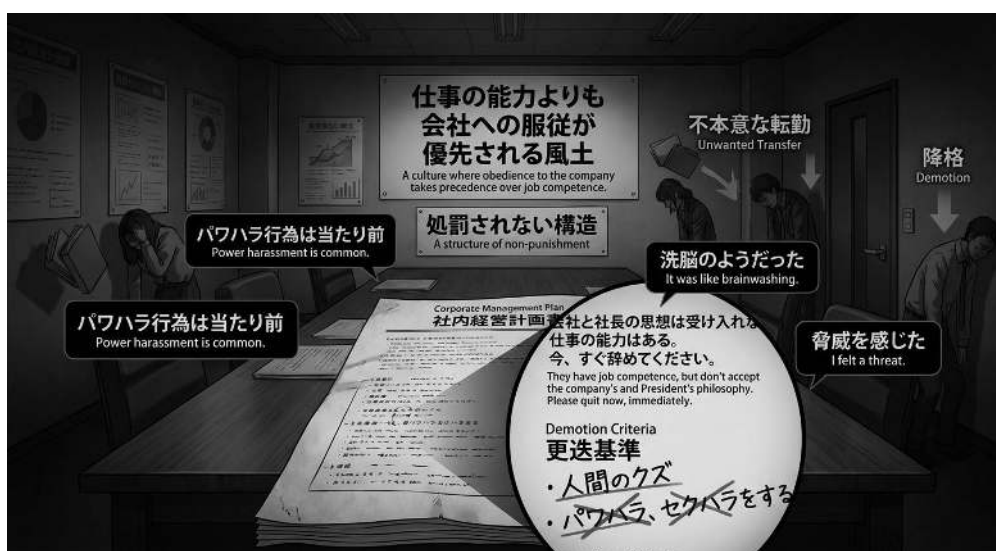
ビッグモーターでは、上司が店長や社員に対し、他の店長らも参加する LINE グループ内で「なめてんの?」「会話すら成立しないなら店長降りろタコ」などの暴言を繰り返し送っていました。休日や勤務時間外にも「ボケカス」「殺すぞ」といったメッセージが送られ、若手社員が昼休憩で外出しようとしただけで先輩社員から「行くな、殺すぞ」と恫喝され、その姿をスマートフォンで撮影されて LINE グループで共有されるという行為まで行われていました。納車準備に手間取った社員はネクタイをつかまれ「ボケ」と暴言を吐かれ、パワハラを人事に訴えても改善されることはありませんでした。



第 19 章 4 節 6 項 ビッグモーター②——「処罰されない構造」

さらに深刻なのは、この暴力が「処罰されない」構造の中にあったことです。ビッグモーターの社内経営計画書には「会社と社長の思想は受け入れないが、仕事の能力はある。今、すぐ辞めてください」と明記され、仕事の能力よりも会社への服従が優先される風土が制度化されていました。

更迭基準の欄には「人間のクズ」「パワハラ、セクハラをする」と書きながら、実際にはパワハラが横行していたのです。ある元従業員は「パワハラ行為は当たり前で、洗脳のようなだった。脅威を感じた」と語り、指示に従わなければ不本意な転勤や降格に追い込まれる同僚もいました。



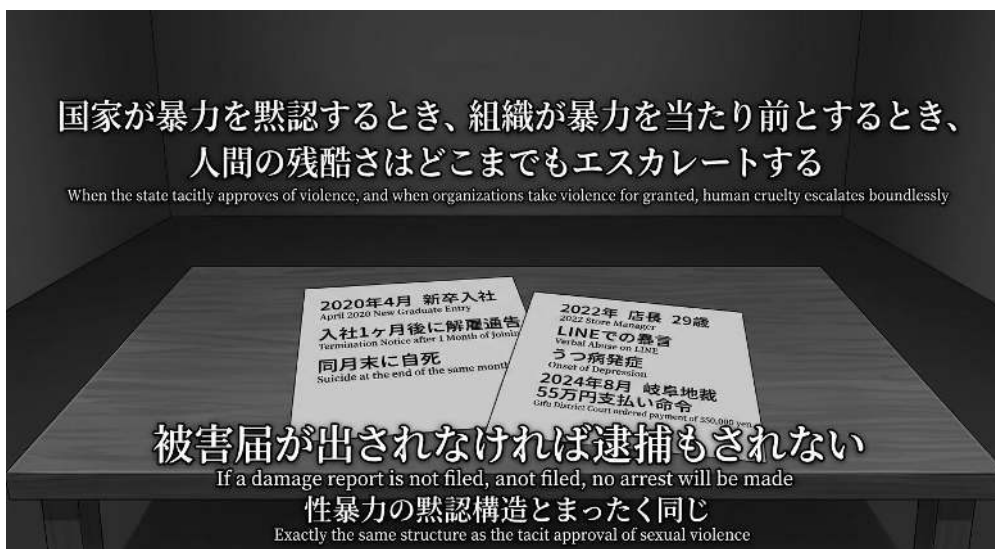
第 19 章 4 節 7 項 ビッグモーター③——「まともな人を自殺に追い込む構造」

この構造がもたらした結果は、単なる精神的な苦痛にとどまりませんでした。2020 年 4 月に新卒入社した 22 歳の男性は、入社わずか 1 ヶ月後に会社から一方的に解雇通告を受け、同月末に自死に追いやられました。2022 年には岐阜県の店舗で店長を務めていた 29 歳の男性が、上司からの LINE での暴言によって

うつ病を発症し、2024年8月に岐阜地裁がビッグモーターに55万円の支払いを命じる判決を下しています。被害届が出されなければ逮捕もされない—これは性暴力の黙認構造とまったく同じです。

国家が暴力を黙認するとき、組織が暴力を「当たり前」とするとき、人間の残酷さはどこまでもエスカレートします。

ビッグモーターのパワハラ体質は、日本の企業社会が「”ファシスト兵士”を再生産する土壌を持っている」ことを、痛烈に示しているのです。



第 19 章 4 節 8 項 処罰されない暴力は、必ずエスカレートする

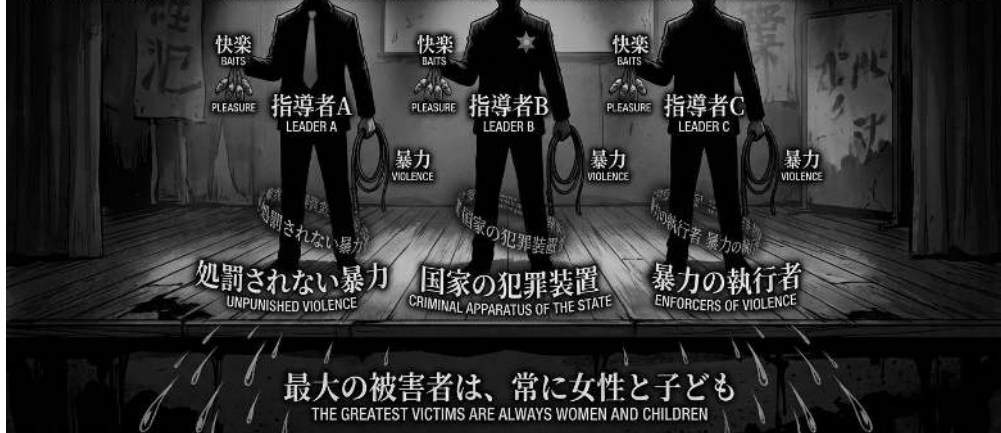
トランプ、ネタニアフ、そして日本の司法・警察・企業—彼らはファシスト兵士を復活させている。快楽と暴力をエサに、人間を国家の犯罪マシンに変える。処罰されない暴力は、必ずエスカレートする。

そして、その暴力の最大の被害者は、常に女性と子どもなのです。

日本が性暴力を容認し、再びファシズム国家になっているのは偶然ではありません。性の汨濫とファシズムの台頭は、深くつながっている—この危険な構造を、私たちは直視しなければならないのです。

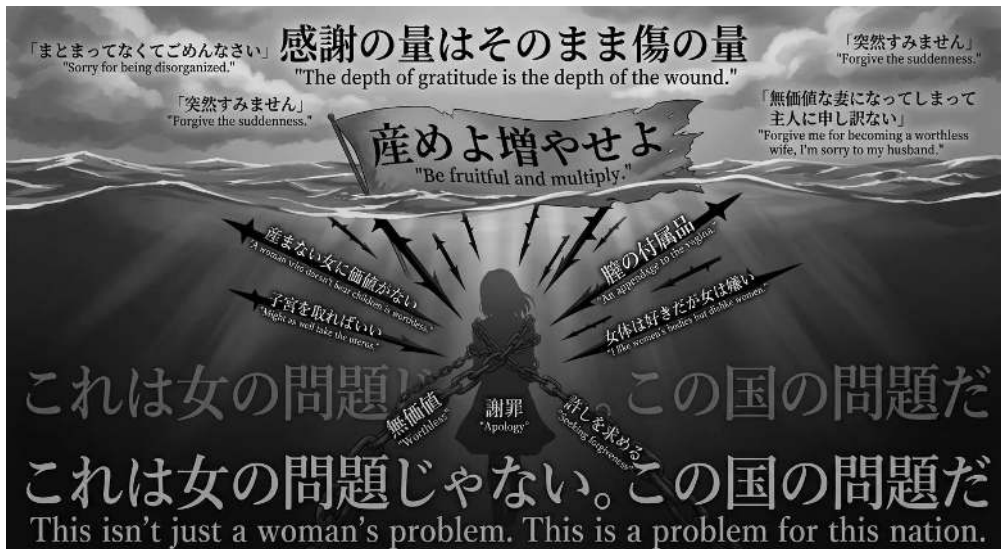
性の汨濫と権威主義の台頭は深くつながっている

THE FLOOD OF SEXUAL EXPLOITATION AND AUTHORITARIANISM ARE DEEPLY CONNECTED



第 19 章 5 節 既に水面下で始まっている「産めよ増やせよ」

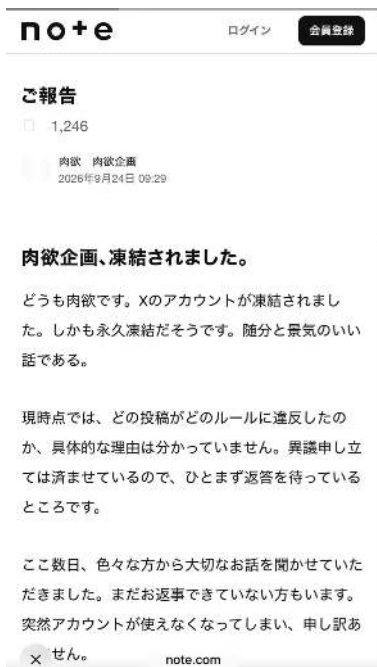
前節では、国家が性暴力を黙認し、処罰されない暴力が際限なくエスカレートしていく構造を見てきました。そして、その構造は決して遠い世界の話ではありません。同じファシズムの論理が、「産めよ増やせよ」という形で、既に私たちの足元で水面下に始まっているのです。



第 19 章 5 節 1 項 産めない女性を庇ったら X のアカウントが永久凍結された

先日、2026 年 9 月 24 日、「肉欲企画」という X のアカウントが永久凍結されました。彼はただ、「産まない女に価値がないなんて言うな」と書いただけでした。

その後、アカウントは解除されたようですが「産まない女性を擁護しただけで、凍結されるほどの攻撃を受ける」—この事実そのものが、日本社会がファシズム化している現状を表しています。



ご利用のアカウントは凍結されています

慎重に審査したところ、ご利用のアカウントはXルールに違反していると判断しました。そのため、ご利用のアカウントは永続的に読み取り専用モードになっています。つまり、ポスト、リポスト、いいねすることができません。新しいアカウントも作成できません。何らかの手違いの場合は、異議申し立てを送信できます。



第 19 章 5 節 2 項 感謝の量は、そのまま日本女性の傷の量

「産めない女に価値がないなんて言うな」と書いただけで、産めなかった人、産まなかった人、身体を壊した人、近所のおばちゃんをしている人から、感謝の言葉が止まらなくなりました。彼はこう書いています。

「最初は嬉しかった。今は腹が立って仕方がない。
感謝の量はそのまま傷の量だ。
口の悪いおっさんが一回怒っただけでこれだけの人が『救われた』と言ってくる。つまりこれまで誰も怒ってくれなかったということだ。
何年も、何十年も。言われっぱなしで誰にも庇われずに、一人で飲み込んできたということだ。」

つまり、「日本人女性は水面下で、夫や家族から産むことを強要され、誰にも庇われずに、一人でガスライティング攻撃に耐えてきた」のです。



第 19 章 5 節 3 項 何も悪いことをしていないのに、謝っている

さらに、彼の元に届いたメッセージには「みんな謝っている」という共通点がありました。

「まとまってなくてごめんなさい」

「突然すみません」

「無価値な妻になってしまって主人に申し訳ない」

「ありがとうございますに來た人が、ついでに謝っている。何も悪いことをしていない人が、感謝の言葉にまで謝罪を添えてくる。」

「謝らないと声を出してはいけないと、どこかで教え込まれてきた」のでしょう。彼はこう怒ります。

「謝るべきなのは『産まない女は無価値』と書いた方だ。

『子宮取れば』と笑った方だ。『まだ産めるよ』と無神経に言った方だ。

なのに謝っているのは言われた側だ。

加害した側は三秒で忘れて、被害を受けた側がずっと頭を下げている。」



第 19 章 5 節 4 項 ネットに溢れる「産めよ増やせよ」の暴言

肉欲企画は、ネットで女性に向けて投げられている言葉を、あえて並べて見せました。

「産まない女は価値がない」

「子宮を取ればいい」

「膣の付属品」

「女体は好きだが女は嫌い」

これを毎日浴びている人間がいるのです。そして、「産めよ増やせよ」というスローガンの下で、女性は「産む機械」として扱われ、産まない女性は「無価値」とレッテルを貼られる。

これは、ナチスや大日本帝国が「産めよ殖やせよ」と叫び、女性を生殖の道具に変えたことと、本質的に同じです。ファシズムの「産めよ増やせよ」が、2026 年の日本で復活しているのです。



第 19 章 5 節 5 項 これは女の問題じゃない。この国の問題だ

肉欲企画は、こう問いかけます。

「女に生きづらい社会を作って女に産めと言う。矛盾してるんだよ。最初から。」

そして、こう結論づけます。

「これは女の問題じゃない。この国の問題だ。」

産まない女性を擁護ただけで、アカウントが凍結される。この事実こそが、日本が再びファシズム国家へと向かっていることの、最も明確な証拠なのです。



第 19 章 5 節 6 項 資料

参考資料として、ツイートとその要約を貼っておきます。

ツイート①



肉欲 肉欲企画
@b2949

X.com

ここ数日ありがとうが止まらない。産めなかった人から。産まなかった人から。身体を壊した人から。近所のおばちゃんをやっている人から。俺はただ「産まない女に価値がないなんて言うな」と書いたただけだ。それだけの文章に、予想の何倍もの感謝が届いている。

最初は嬉しかった。今は腹が立って仕方がない。感謝の量はそのまま傷の量だ。口の悪いおっさんが一回怒っただけでこれだけの人が「救われた」と言うてくる。つまりこれまで誰も怒ってくれなかったということだ。何年も、何十年も。言われればなしで誰にも庇われずに、一人で飲み込んできたということだ。

届いたメッセージを読み返して、もう一つ気づいたことがある。みんな謝っている。

「まとまってなくてごめんなさい」

「突然すみません」

「無価値な妻になってしまって主人に申し訳ない」

ありがとうを言いに来た人がついでに謝っている。何も悪いことをしていない人が感謝の言葉にまで謝罪を添えてくる。謝らないと声を出してはいけないと、どこかで教え込まれてきたんだろう。おかしいだろ！

謝るべきなのは「産まない女は無価値」と書いた方だ。「子宮取れば」と笑った方だ。「まだ産めるよ」と無神経に言った方だ。なのに謝っているのは言われた側だ。加害した側は三秒で忘れ、被害を受けた側がずっと頭を下げている。

これがこの国の現状なら俺はプチギレるしかない。

念のため言っておくが俺は女の代弁者じゃない。代弁できるほど分かってもない。分からないなりに目の前でこれだけの人が長年黙らされてきた痕跡を見せられたら、怒らない方が不自然だ。

誰に怒るか。まず言っただ奴だ。これは簡単だ。

次に黙って見ていた奴だ。俺も含めて。俺だって二十年ネットにいて、こういう言葉が流れていくのを何度も見てきた。見て、腹を立てて、それでもスクロールした日がある。その積み重ねが今のこの感謝の山を作っている。一回一回は小さな沈黙でも全部合わせればこれだけの人を置き去りにしてきた。

そしてそういう言葉が平気で流通する空気を作ってきた全部だ。子どもを産んだかどうかで女を採点する目線。産まない理由を個人の怠慢にすり替える言説。働きながら身体を壊しても自己責任で片付ける仕組み。個人の口から出る暴言は、全部その空気の中で育っている。

だから言い続ける。

感謝されるたびに腹を立てながら言い続ける。いつかこの感謝が来なくなる日がゴールだ。俺が同じことを書いても「まあ当たり前だよ」としか言われなくなる日。誰も救われたと言わなくなる日。救われる必要がなくなる日。

その日までありがとうを数えている。数えながら怒っている。

最後に、ありがとうをくれた人たちへ。

謝らなくていい。あなた方は何も悪くない。まとまってなくていいし、突然でいいし、申し訳なく思う必要なんてどこにもない。

頭を下げるのは言っただ奴だ。いつでも俺に言ってくれ。ぶん殴ってやるからよ。

21/28 · 2026/09/22 · 23万回表示

💬 21 🔖 764 ❤️ 7290 📌 638 🔄

「産まない女に価値がないなんて言うな」と書いただけで、産めなかった人、産まなかった人、身体を壊した人、近所のおばちゃんをしている人から、感謝が止まらない。だが、感謝の量はそのまま傷の量だ。みんな「まとまってなくてごめんなさい」「突然すみません」「無価値な妻になってしまって主人に申し訳ない」と、何も悪いことをしていないのに謝っている。謝るべきは「産まない女は無価値」と書いた方だ。加害した側は三秒で忘れ、被害を受けた側がずっと頭を下げている。黙って見ていた側も責任がある。感謝が来なくなる日がゴールだ。

ツイート②



肉欲 肉欲企画
@h2949

X.com

ここ数日、俺のところにいろんな声が届いた。

子宮の病気で四年頑張って産けなかった人。激痛で身体を壊して、数百万かけた不妊治療の末に産めなかった人。子どもはいないけど近所のおばちゃんとして胸を張っている人。みんな最後に「ありがとう」と書いてくる。

ありがとうと言われるたびに僕の心が冷たくなる。

俺がしたのは一般論を言っただけだ。産めない人間に価値がないなんて言うな、と書いただけだ。それだけで泣いている人がいる。つまりそれだけのことを証明も言っておかなかったということだ。

だから今日はまとめてやる。祭りだ。笑える祭りじゃないが。

いまネットで女に向けて投げられている言葉を並べてみる。産まない女は価値がない。子宮を取ればいい。生型中みたいな情緒だな。膣の付属品。女体は好きだが女は嫌い。

書き写してて手が汚れる気がする。これを毎日浴びている人間がいる。

言っている側は大体匿名だ。三秒で書いて、いいねを数個もらって、画面を閉じて飯を食う。明日には自分が何を書いたかも覚えていない。

浴びた側は覚えている。何年も覚えている。病院の待合室で、療養の飲み会で、親戚の集まりで、ふとした拍子におの一行が戻る。お前が三秒で捨てた言葉を、誰かが何年も持ち歩いている。この非対称を必ず知っておけ。

言い訳も先に済ましておく。

「ネタだよ、本気にするなよ」

ネタで笑っているのはお前とお前と同じ場所にいる俺中だけだ。笑えない人間がいる時点でネタは成立していない。成立していないネタはただの暴言だ。

「女だって男を叩いてるだろ」

叩いてる奴はいる。そいつには俺も文句を言う。言うがそれはお前が今やっていることの免罪符にはならない。向こうがやってるからこっちもいい、は五歳児の理屈だ。男が叩かれて涙が立つなら、その姿を単独で書き。女を殴る理由に使うな。

「事実を言ってるだけだ」

事実なら出典を出せ。数字を出せ。出せないならそれはお前の周りにいた数人の女の話は何千万人に貼り付けているだけだ。

で、ここからは男に向けて語る。

俺も男だ。名前は肉欲企画だ。性欲はある。下品でもある。過去も稀薄じゃない。だから聖人ぶるつもりはない。

欲があるのはいい。欲を持つなとは誰も言っていない。だけどな、欲を人にぶつけるな。女を欲の受け皿としてしか見ない回路をせめて自覚しろ。

女を人間として見ていない男は最終的に誰とも繋がれない。女とも繋がれないしたぶん男とも繋がれない。人を人として扱えない人間の周りからは人が静かになくなる。お前が画面に向かって「マンさん」と打っている間にお前の周りの椅子は一つずつ空いていく。

殴っている相手は女だと罵っているだろう。違う。お前が一番殴っているのはお前自身の未来だ。

それから黙って見ている男たちへ。

お前は書いていない。分かる。お前は悪くない。だがあの手の書き込みを見てスクロールして、何も言わずに通り過ぎていないか？

一行でいい。「それはおかしいだろ」と書いてくれ。

女が言う「ヒステリー」と処理される言葉が男が言うとき少しだけ通る。腹立たしい語だが今はそういう世の中だ。だったら使え。男という立場を、踏む創りではなく止める創で使え。

俺がこういうことを書くとき「かっこいい」と言われる。かっこよくない。当たり前のことだ。当たり前のお前が珍しく見える方がおかしい。俺みたいな口の無いろっさんが珍しくなくなったら、その時この国は少しマシになっている。

それまでは俺がやる。

祭りは続く。お前らが三秒の一行を投げ続ける限り、俺は何十行でも投げ返す。

18:38 · 2026/03/22 · 54万回表示

🗨️ 34 🔄 1765 ❤️ 1.1万 📌 1333 ➦

ネットで女に向けて投げられている言葉を並べる。「産まない女は価値がない」「子宮を取ればいい」「膣の付属品」「女体は好きだが女は嫌い」。書き写してて手が汚れる気がする。これを毎日浴びている人間がいる。言っている側は大体匿名で、三秒で書いて、いいねを数個もらって、明日には自分が何を書いたかも覚えていない。浴びた側は何年も覚えている。この非対称を知っておけ。

「ネタだよ」—笑えない人間がいる時点でネタは成立していない。
「女だって男を叩いてるだろう」—それはお前が今やっていることの免罪符にはならない。「事実を言ってるだけだ」—出典と数字を出せ。
男に向けて言う。欲を人にぶつけるな。女を欲の受け皿としてしか見ない回路を自覚しろ。

黙って見ている男たちへ。一行でいい。「それはおかしいだろう」と書いてくれ。祭りは続く。お前らが三秒の一行を投げ続ける限り、俺は何十行でも投げ返す。

ツイート③



肉欲 肉欲企画

@b2949



お前ら、どうして女が泣いているのか分からないのか

ここ数日、俺のところに届くリプライを読んでいる。泣いている。ほとんどが泣いている。ありがとう、涙が出ました、救われました、心を殺してスクロールしてきました。そういう言葉がまだ止まらない。

お前らは見ていないのか？見ていて何も思わないのか？俺がやったのは一般論を言っただけだ。産まない女に価値がないなんて言うなと書いっただけだ。それだけのことで手術を控えた人が、流産した人が、何百万もかけた人が、何年も謝り続けてきた人が、一斉に泣いている。

これが何を意味するか分かるか。それだけの人が、これまで一度も誰かに庇われたことがなかったということだ。

産めないと言えば「努力が足りない」と言われ、産まないと言えば「わがまま」と言われ、身体を壊せば「自己管理ができていない」と言われ、それでも黙って働いて、黙って謝って、黙って生きてきた。誰も「それはおかしい」と言ってくれなかった。だから口の悪いおっさんが一回怒っただけで泣く。

泣かせたのは俺じゃない。お前らだ。お前らが何年もかけて、暴言を積み重ねてきた。一つ一つは軽いと思っているだろう。ネタだと思っているだろう。そのネタの山の下で、どれだけの人が息を潜めてきたか想像したことがあるか。

ないだろうな。想像できていたらあんな言葉は出てこない。

強くなくては優しくなれない。強さっていうのは殴り返せない相手を殴らないことだ。殴れる立場にいても殴らないことだ。お前らがやっていることの真逆だよ。お前らは殴り返せない相手を選んで殴っている。それは強さじゃない。ただの卑怯だ。

卑怯な人間は優しくなれない。優しくなれない人間の周りからは人が消える。

分かるか。分からないならせめて黙れ。黙って泣いている人の言葉を一つでいいから読め。読んだらたぶん分かる。

強くならなくてもいいが、せめて優しくなってくれ。

2:09 · 2026/09/23 · 14万回表示

22 870 7208 641

届くリプライはほとんどが泣いている。
お前らは、どうして女が泣いているのか分からないのか。俺がやったのは一般論を言っただけだ。それだけで、手術を控えた人、流産した人、何百万もかけた人、何年も謝り続けてきた人が一斉に泣いている。それだけの人が、これまで一度も誰かに庇われたことがなかったということだ。
泣かせたのは俺じゃない。お前らが何年もかけて暴言を積み重ねてきた。

強さとは、殴り返せない相手を殴らないことだ。お前らは殴り返せない相手を

選んで殴っている。
それは強さじゃない。ただの卑怯だ。

ツイート④



X.com

俺がこんな名前で言うのもなんだが、女性に生きづらい社会を構築して、お前らはどうしたいんだ？

最初に叩いておく。俺はフェミニストじゃない。そう呼ばれるのが怖いわけじゃなくて、単にそういう価値観をしてきた人間ではないし、旗を持つ資格があるとも思っていない。だがここ数日で女性の生きづらさというものをかなりの量浴びた。浴びたからには書く。レッテルを貼りたい奴は貼ればいい。

ここ数日、俺のところに前回の声には共通点があった。

産めない理由がある人。産まないと決めた人。どちらも何かに対して許しを求めている。

「それでも許されますでしょうか」

と書いてきた人がいた。誰に許しを求めているのか。俺にか。世間にか。自分自身にか。たぶん全部だ。

おかしいと思わないか。自分の身体のことを、自分の人生のことを決めるのに、誰かの許可を取らなきゃいけない気がしている。そういう空気を誰が作った。

女性の生きづらさは、たぶん選べないことと、選んだら責められること、その両方できています。

産めば産んだで働き続けろか辞めろかを問われる。働き続けられれば子どもが可哀想と言われ、辞めれば社会から降りたと言われる。産まなければ産まないで、どうして産まないのかと聞かれる。答えれば言い訳だと言われ、答えなければ冷たい女だと言われる。

どこを選んでも何か言われる。正解の選択肢が最初から用意されていない。これが生きづらさの正体だと思う。

男はどうか。

俺は四十年以上男をやってきたが子どもを作るかどうかで責められたことは一度もない。結婚しているかどうかを職場で詮索されることもほとんどない。育児を取ったら「えらいね」と言われたらそう。同じことを女がやっても誰も褒めない。当たり前だと思われているからだ。

同じ行爲に対して。男には加点があって、女には減点しかない。この採点方式を作ったのは誰だ。

少なくとも女じゃない。

身体の話もしておく。

届いた声の中には仕事で身体を壊した人が何人もいた。婦人科系を壊して授かりたい時期には授けられなかった。そういう人たちが「なんのために頑張ってきたんだろ」と書いてくる。

頑張らせた社会の方がおかしいんだよ。

男の身体に合わせて作られた働き方の中に女が入っていき、同じ時間、同じ強度で働いて身体を壊す。壊したら自己責任の問題だと言われる。責任でできない働き方を推奨しておいて壊れたら個人の責任にする。これは設計の欠陥だ。欠陥のある機械を使わせて壊れたら使い手が悪いと言っている。

それから言葉の証だ。

何気ない一言が、女の人生に何年も刺さり続けている。

「子供産んだらいいのに」

「まだ産めるよ」

「老後どうするの」

言った側は覚えていない。言われた側は手拭台に乗る直前まで覚えている。

言葉は無料だと思われている。実際は無料じゃない。誰かが代金を払っている。払っているのが女で、請求書を切っているのがこの社会だ。

で、お前らはどうしたいんだ。

女が産まなくなったと嘆いている。少子化が課題だと言っている。じゃあ聞くが、この社会で産みたいと思える女がどれだけいると思う。産めば働き方を問われ、産まなければ価値を問われ、身体を壊せば自己責任で、何を選んでも誰かに責められる。そんな場所ですら子どもを持ちたいと思える方がどうかしている。

女に生きづらい社会を作って女に産めと言う。

矛盾してるんだよ。最初から。

俺は肉欲企画だ。名前の通り下品な男だ。女の生きづらさを代弁できるほど分かってはいない。分かってはいないが、目の前でこれだけの人が長年やり続けてきたことは分かる。分かった以上は黙ってられない。

フェミニストと呼ばれたいは呼べ。

ただ一つだけ言っておく。

これは女の問題じゃない。この国の問題だ。

23:39 · 2026/09/22 · 362万回表示

🗨️ 190 🔄 9138 ❤️ 5.4万 📌 9694 📌

女性に生きづらい社会を構築して、お前らはどうしたいんだ？
届いた声には共通点があった。「それでも許されますでしょうか」と書いてき

た人がいた。自分の身体のことを、自分の人生のことを決めるのに、誰かの許可を取らなきゃいけない気がしている。

女性の生きづらさは、「選べないこと」と「選んだら責められること」でできている。産めば働き方を問われ、産まなければ価値を問われ、どこを選んでも何か言われる。正解の選択肢が最初から用意されていない。

男はどうか。子どもを作るかどうかで責められたことは一度もない。同じ行為に対して、男には加点があって、女には減点しかない。身体の話。男の身体に合わせて作られた働き方の中に女が入って行って、身体を壊す。壊したら自己管理の問題だと言われる。これは設計の欠陥だ。

言葉の話。「子供産んだらいいのに」「まだ産めるよ」「老後どうするの」——言った側は覚えていない。言われた側は手術台に乗る直前まで覚えている。言葉は無料じゃない。誰かが代金を払っている。払っているのが女で、請求書を切っているのがこの社会だ。産みたいと思える女がどれだけいると思う。そんな場所で子どもを持ちたいと思う方がどうかしている。

これは女の問題じゃない。この国の問題だ。

この指摘はかなり「ファシズム男や危険男の本質を表している」と思います。

「強さとは、殴り返せない相手を殴らないことだ。お前らは殴り返せない相手を選んで殴っている。それは強さじゃない。ただの卑怯だ。」

第 20 章 なぜフィクションと現実を分けることが、ファシズムを防ぐ鍵になるのか？

第 20 章 1 節 「現実と虚構の区別」が失われて暴走する

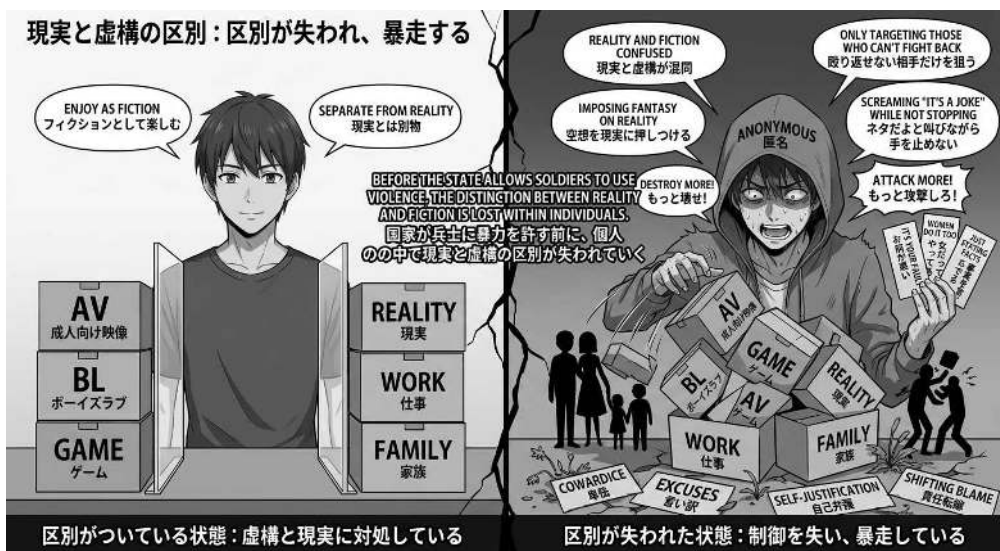
ここまで、国家や司法が性暴力を黙認し、処罰されない暴力が際限なくエスカレートしていく恐ろしい構造を、イスラエル、日本、アメリカを通して見してきました。国家が「欲望の動員」で兵士を犯罪マシンに変え、組織が暴力を「当たり前」にし、司法が被害者を沈黙させる—このマクロな構造は、あまりに巨大で、遠い世界の出来事のように感じられたかもしれません。

しかし、この構造は決して「向こう側」の話ではありません。国家が兵士に暴力を許す前に、その手前で起きていることがあります。

それは、1人1人の個人の中で「現実と虚構の区別」が失われていく過程です。

国家が「欲望の動員」で兵士を犯罪マシンに変えるなら、AV は「欲望の操作」で視聴者を現実と虚構の区別がつかない状態に変えていく。

その構造は、根本的に同じなのです。そのことを例え話で解説していきます。



第 20 章 1 節 ディズニーを楽しむのと同じーフィクションと現実を分けること

ここで重要な例え話をしましょう。

ディズニーランドを楽しむ人は、それがフィクションだとわかっています。ミッキーマウスは実在しないし、プリンセスも魔法も存在しない。それでも、ディズニーを楽しむことはできます。なぜなら、フィクションとして楽しむ能力があるからです。

しかし、「サンタクロースを信じる異常男」がいます。

サンタは実在しないと知りながら、「サンタはいるはずだ」と信じ続け、周囲にサンタの存在を強要するーこれが危険男の正体です。

良妻賢母は戦前の幻想であり、AV 女優は演じられた役割です。それを現実の女性に押しつけ、従わないと暴力で従わせようとするーこれがファシスト化です。

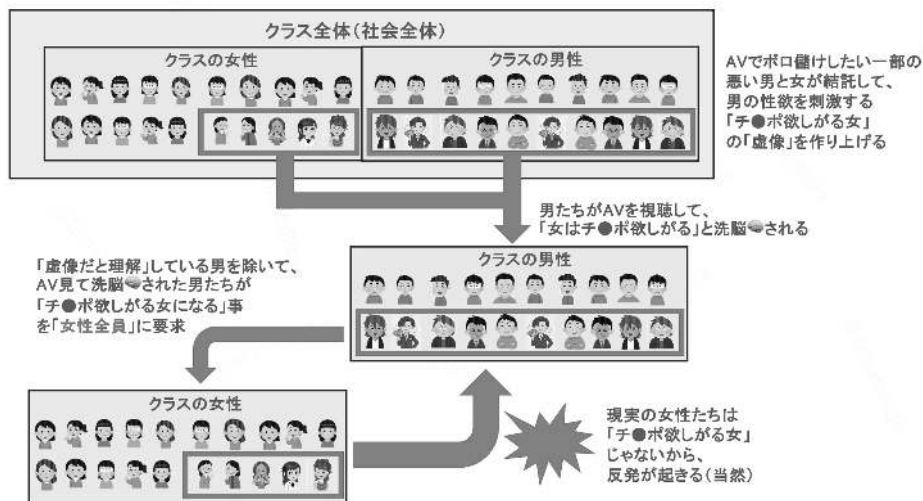
健全な楽しみ方と危険な押しつけ

健全な楽しみ方	危険な押しつけ
ディズニーをフィクションとして楽しむ	ミッキーは実在すると主張する
AVをフィクションとして楽しむ	AV女優と同じように振る舞えと要求する
良妻賢母を「一つの理想」として認識する	良妻賢母になれと暴力で従わせる
幻想と現実を分けて認識する	幻想を現実には押しつけて攻撃する

現実とファンタジーや虚構を分けて現実認識できるなら、AV を見ても何の問題ありません。女性が BL などを楽しむのと同じです。

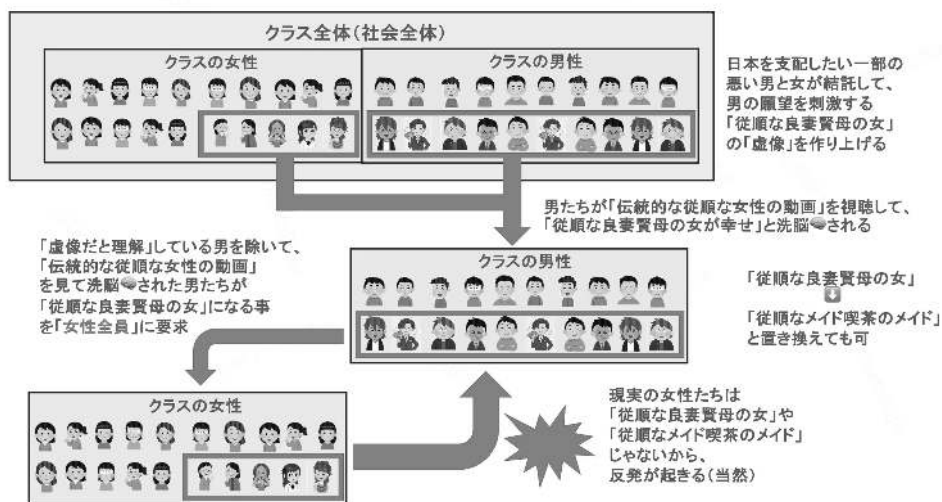
しかし、異常男や一部の異常女性は、現実と虚構を混同して、「サンタを信じる異常男」になっています。

男が洗脳されて社会をファシズム化する仕組み①(「AVの虚像」が侵食する仕組み)



そして、良妻賢母などを求めて暴力で従わせようとファシスト化しているのです。

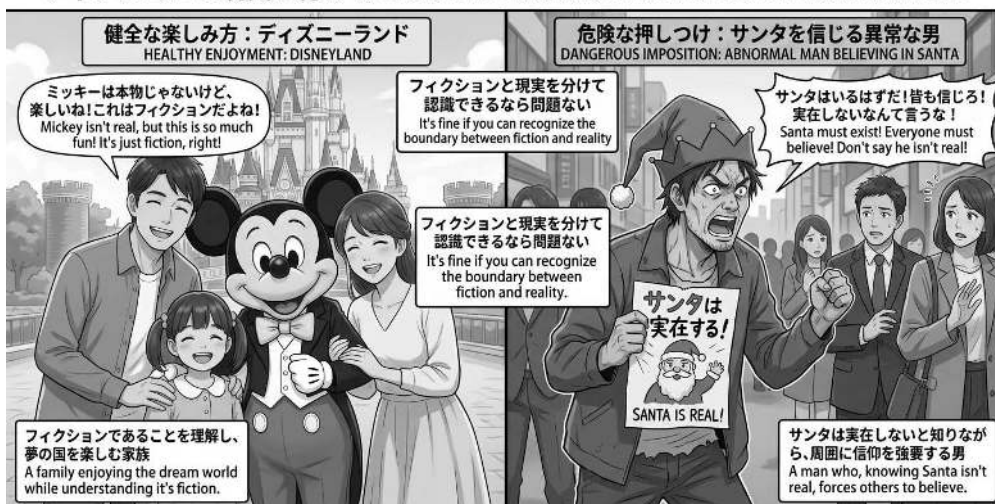
男が洗脳されて社会をファシズム化する仕組み②(「良妻賢母の虚像」が侵食する仕組み)



第 19 章で見てきた「国家が性暴力を黙認し、兵士を犯罪マシンに変える」構造も、「処罰されないから何をしてもよい」という現実認識の歪みから始まっていた。それと同じことが、AV を見る個人の中で起きているのです。日本が性暴力を容認し、再びファシズム国家になっているのは偶然ではありません。

マクロなファシズムとミクロな現実認識の歪みは、深くつながっているのです。

フィクションと現実を分けること / DISTINGUISHING FICTION FROM REALITY



第 20 章 2 節 なぜ欧州に合わせた規制が必要なのか？

Q.なぜ欧州に合わせた規制が必要なのでしょう？

答え：子どもや女性の尊厳を守るために、メディア規制と教育の両面からのアプローチが必要だからです。

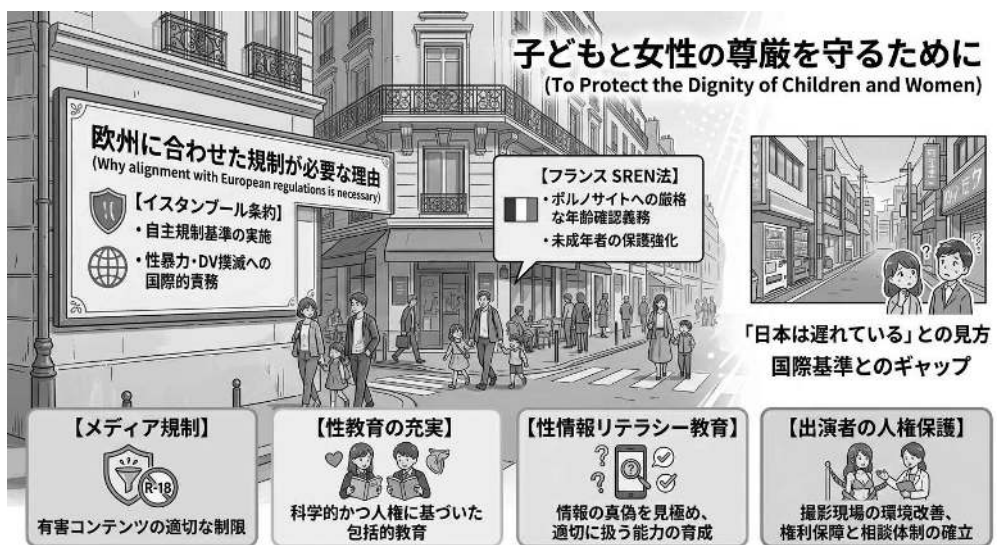
第 19 章で見たように、国家が性暴力を黙認すれば、暴力は際限なくエスカレートします。その出発点には、「AV の虚構を現実を持ち込む」という個人レベルの現実認識の歪みがあります。だからこそ、その歪みを生まないための規制と教育が必要なのです。

欧州では、イスタンブール条約に基づき、メディアに対して「女性に対する暴力の容認をとがめる自主規制基準」が奨励されています。また、フランスでは 2024 年の SREN 法により、ポルノサイトに年齢確認が義務付けられました。これらは、国家が「性暴力を黙認しない」という明確な意思表示なのです。

日本でも、以下のような対策が必要です。

1. メディア規制：CM や広告における女性の描写に関するガイドラインの強化。子ども向けコンテンツにおける性化の禁止。

2. 性教育の充実：「歯止め規定」の撤廃と、同意・相互尊重・コミュニケーションを中心とした性教育の実施。
3. 性情報リテラシー教育：AV やポルノが「フィクションの欲望世界」であることを教え、批判的に読み解く能力を育てる。
4. 出演者の人権保護：AV 新法の実効性の確保と、出演強要・債務奴隷的契約の根絶。



第 19 章で見た「処罰されない暴力は必ずエスカレートする」という構造を断ち切るには、国家が「性暴力を黙認しない」という強い意志を示すと同時に、一人ひとりが「フィクションと現実を分ける力」を身につけることが不可欠なのです。マクロな規制とミクロな教育—その両方がそろって初めて、日本がファシズムへと向かう流れを止めることができるのです。

第 21 章 おわりに——AV の全体像を見渡して

ここまで、「なぜ？」を軸に AV の本質を解き明かしてきました。最後に、この記事の核心を 4 つにまとめます。

1. AV は「虚構の欲望世界」である—実際の行為や身体を使いながら、編集・演出・物語で現実とは別物にしている。そして、あなたの欲望を刺激して課金させるための「商業システム」である。
2. エロスは状況と物語で変わる—同じ物でも、置かれた状況と物語でエロにも中性にもなる。条件づけと学習の産物である。電車が痴漢の場になるのも、これが理由である。
3. 現実 is 幻想の上に成り立っていない—結婚生活でエロスが減るのは、相手が劣化したからではなく、フィクションが解けたからである。ウンコしないアイドルがウンコするのと同じ。それが当たり前ののだ。
4. 現実 is 同意・共感・会話・相互性で築く—AV はフィクションとして楽しみ、現実の女性に空想を押しつけない。ディズニーを楽しむように、フィクションと現実を分けて認識できるなら問題ない。 しかし、「サンタを信じる異常男」になってはいけない。

AV の存在は、単なる娯楽を超えて、子どもや女性の社会的価値を毀損する侵略的メディアとして厳しく認識されるべきです。「AV は性教育の教科書ではない」—このメッセージを、社会全体で共有することが第一歩です。

実用 AV リテラシー入門で AV の構造を知ること、見えて来たものもあると思います。上手く役立てて頂ければ幸いです。



あとがき

ここまで読んでくださった方に、心からお礼を申し上げます。

本書でお伝えしたかったことは、ただひとつです。

AVは「虚構の欲望世界」であり、それを現実の女性に押しつけてはいけません。

そして、問題の原因は一般の日本人女性にあるのではなく、日本人男性や一部の女性がおかしくなっていることにあり、その背後にはファシズム化がある—ということです。

本書で投げかけた「なぜ？」に、あなたは答えを見つけることができたでしょうか？ここで、その一部の答えを振り返ってみましょう。

Q.なぜ、同じ人でもエロく感じたり、エロく感じなくなったりするのか？

どんな美人でも、長く一緒にいると飽きます。これは「女性が劣化した」からではなく、「フィクションや幻想が解けていくから」です。エロスには文脈依存であり、相手が変わったのではなく、自分の幻想が変わっただけなのです。

Q.なぜ、男は電車やバスや職場を“エロい場所”だと思ってしまうのか？

電車やバスは、もともと中性の「ただの乗り物」です。しかしAVが「電車＝性的な場所」という刷り込みをすることで、一部の男性が現実の電車を性的な場と誤認してしまいます。これは古典的条件づけの典型例です。

Q.AVを見た男に、いきなり普通じゃないプレイを求められた—なぜそんなことが起きるのか？

男がAVを「虚構の欲望世界」であると理解せず、現実の女性に押しつけているからです。AV女優は「AVの世界の役」を演じているのであり、現実の女性は役を演じているわけではありません。AVと現実の最大のギャップは、同意

とプロセスの省略です。AV では都合よく省略される同意・確認・会話・調整が、現実の性には不可欠なのです。

Q.AV が男の性教育の教科書になってしまい、正しい性教育が届いていない—なぜそんなことになったのか？

日本の性教育はカルトが邪魔をしており、AV が事実上の性教育の代替となっています。AV は男に射精を誘導するため、「抵抗➡受容」「中出し」「演技的な反応」など、現実の性とは真逆の内容を教えています。その結果、同意を無視したプレイをしたがる男が増えているのです。

Q.なぜ、夫は『妻が劣化した』などと言うのか？なぜ、男は『産まない女に価値がない』などと平気で言えるのか？

それらはすべて、相手を対等な人間ではなく、自分の性欲処理の役割や機能として見る態度です。自分の変化や努力不足から目をそらし、相手だけに非日常や女としての努力を求める—それは、オモチャを買ってもらえなくて駄々をこねる幼児と同じ。単なる妻への責任転嫁なのです。

Q.なぜ、性暴力を黙認する国は、ファシズムへと向かうのか？

国家が性暴力を黙認すれば、暴力は際限なくエスカレートします。処罰されないという事実そのものが、次の暴力への許可証になるからです。ナチスが「性の解放」というエサで男たちを操り、戦場での暴力を黙認したように、現代の日本でも同じ構造が機能しています。

—これらの問いは、すべて一本の線でつながっています。

AV は「虚構の欲望世界」です。それを現実の女性に押しつけてはいけません。ディズニーを楽しむように、フィクションと現実を分けて認識できるなら問題ありません。しかし、「サンタを信じる異常男」になってはいけません。

AV の存在は、単なる娯楽を超えて、子どもや女性の社会的価値を毀損する侵略的メディアとして厳しく認識されるべきです。

「AV は性教育の教科書ではない」—このメッセージを、社会全体で共有することが第一歩です。

最後までお読みいただき、本当にありがとうございました。

2026 年 10 月

オリオンヴェイル 

注釈・参考文献

参考文献

1. 渡辺真由子「AV・ポルノが発信する性情報と現実社会への影響」JASE 現代性教育研究ジャーナル 2025 年 3 月 15 日号
2. 田野大輔『愛と欲望のナチズム』講談社学術文庫、2012 年（2024 年 10 月増補文庫版）
3. 内藤朝雄『いじめの構造——なぜ人が怪物になるのか』光文社新書、2009 年
4. 荻上チキ／栗原俊雄『大日本いじめ帝国——戦場・学校・銃後にはびこる暴力』
5. サンドラ・ヘフェリン『体育会系 日本を蝕む病』光文社新書、2020 年 2 月
6. 多田文明『統一教会の元信者が明かすその手口と実態』

統計・調査出典

1. 「性と恋愛に関する意識調査 2025」——学校で受けた性教育が「役立っている」と回答した若者：53.3%、大人：27.6%
2. 2025 年 6 月調査——20～30 代の女性約 20 人のうち 2 割が「日本で女の子を産むと“性被害者”になるから、子どもを作る気になれない」と回答
3. 文部科学省「令和 6 年度（2024 年度）児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（2025 年 10 月 29 日発表）——いじめ認知件数：76 万 9,022 件
4. 厚生労働省「令和 6 年（2024 年）自殺者数（暫定値）」——小中高生自殺者数：527 人（統計開始以来過去最多）
5. OECD 2025 年報告書——ポルノアクセス規制に関する国際比較
6. フランス SREN 法（2024 年）——ポルノサイトへの年齢確認義務
7. イスタンブール条約（女性に対する暴力及び DV の防止に関する欧州評議会条約）

8. 国連女子差別撤廃委員会（CEDAW）——ポルノ・アニメが女性・少女への暴力を助長する可能性への懸念

9. Human Rights Now（HRN）——AV 出演強要を「深刻な女性に対する暴力」「債務奴隷」的性質を持つと非難

10. AV 出演被害防止・救済法（AV 新法）——2022 年 6 月 23 日施行

11. 2026 年 7 月報道——政府が性教育で性交などを扱わない「歯止め規定」を維持する方針

12. 2026 年 6 月——AV 女優・福田ゆあ氏がニュージーランドへの入国を拒否され強制送還

13. 2026 年——AV 女優・由良かな氏が海外ユーザーから「未成年に見える」と批判を受けた事件

14. 2021 年——SOD 無修正マスターテープ大量流出事件

15. 2024 年——全国で 239 人の警察官が不祥事を理由に懲戒処分、うちセクシャルハラスメントや性的虐待が 78 件（約 32%）

16. 2022 年——大阪地検元トップによる「レイプ事件」

17. 2023 年 8 月～2024 年 1 月——岡山県岡山市で 25 歳の元派遣社員・徳●蓮被告が同僚女性の水筒や蜂蜜の瓶に自身の精液を混入した事件

18. 2020 年 4 月——ビッグモーターに新卒入社した 22 歳の男性が入社 1 ヶ月後に自死

19. 2024 年 8 月——岐阜地裁がビッグモーターに 55 万円の支払いを命じる判決

20. 2025 年 11 月——アメリカ国会が「エプスタイン・ファイル透明化法」を可決

21. 2026 年 1 月末——エプスタイン・ファイル公開

22. 2026 年 9 月 24 日——X アカウント「肉欲企画」が永久凍結

23. 2018 年 10 月——AV 女優・吉澤明歩引退

24. 2016 年——AV 女優・天海翼引退

25. フランスの臨床心理士 3 名が 2025 年 10 月に国連に提出した報告書——早期のポルノ暴露（平均 9 歳）が性暴力に匹敵する心理的損傷を引き起こす